

令和3年度 本部事業計画書（案）

社会福祉法人 ささゆり会

令和3年度は、4月に介護報酬改定があります。介護報酬改定が0.7%引き上げられました。新型コロナウイルス感染症に対応するための特例的な評価として令和3年9月末までの間で0.05%含まれます。今回の改定は、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図る目的でもあります。そのため、ICTを活用したLIFEが重要になっています。

今年度、職員の新しい社宅の建設費として1億2000万円を予定しています。また、サンライフ御立とサンライフ魚崎の外壁工事を予定しています。

本年度もベトナムからのEPA(経済連携協定)の受け入れを行います。昨年度は、法人全体で7名の受け入れをしました。本年度は法人全体で2名のEPA候補生の受け入れ予定になります。特別養護老人ホームサンライフ魚崎で1名、介護型ケアハウスサンライフ魚崎で1名が就労予定です。8月より配属予定になります。また、4月よりインドネシアから技能実習生が来日予定です。インドネシアからの技能実習生は、サンライフ御立で4名、サンライフ土山で3名、サンライフ西庄で3名、サンライフひろみねで1名、サンライフ魚崎1名、介護型ケアハウスサンライフ魚崎で2名の合計14名が就労予定です。また、ミャンマーから特定技能生として、サンライフ御立が4名、サンライフ土山が2名、サンライフひろみねが1名、サンライフ西庄が6名の合計13名が就労予定になっています。海外から来ている為、生活や仕事に不安を抱えてしまう可能性がありますので、メンタルケアや生活支援をしていきます。そして、介護福祉士の資格取得の為、日本語や介護福祉士の学習支援をしていきます。

昨年度と同様に各事業所クラスターの発生が起きないように、新型コロナウイルスの感染予防対策を行なっていきます

運営スローガン：『コロナ感染防止で経営力強化を！』

1. 本年度の重点課題

- I. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・外国人技能実習生受け入れ
- II. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT 導入による業務改善
- III. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)、技能実習生、特定技能生の採用と育成

2. 定例会議

ア. 理事会

当法人の業務執行機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の執行を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回理事会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. 新理事・監事の推薦 4. その他諸規定の検討	2021 年 6 月
第 2 回理事会	1. 理事長・副理事長の選任 2. 評議委員選任・解任委員の選任 3. 時期評議員候補の評議員選任委員会への推薦	2021 年 6 月
第 3 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	2021 年 8 月
第 4 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	2021 年 10 月
第 5 回理事会	1. 県、市による指導監査の是正監査 2. 上半期事業推進報告と課題の検討 3. その他諸規定の検討	2021 年 12 月
第 6 回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	2022 年 2 月
第 7 回理事会	1. 事業計画書 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	2022 年 3 月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	
監査報告	1. 会計監査人会計監査報告	2021 年 6 月
第 1 回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	2021 年 6 月
第 2 回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	2021 年 12 月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
定時評議員会	1. 充実残高計画の承認 2. 2021 年度計算書類の承認 3. 新理事・監事の選任 4. 定款施行細則の承認	2021 年 6 月
臨時評議員会	1. 事業計画・予算案の承認 2. 法人組織・諸規程の承認、その他	2022 年 3 月

エ. 評議委員・選任解任委員会

会 議 名	内 容	時 期
評議委員・選任解任委員会	1. 評議委員の改選	2021 年 6 月

2. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第 1 回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について	2021 年 12 月
第 2 回推進委員会	1. 2022 年度事業計画御立・魚崎事業所の摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	2022 年 3 月

特別養護老人ホームサンライフ御立

令和3年度 事業計画書（案）

今年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を基に、医務と連携し感染症防止に尽力し、ご利用者の安心安全な生活の確保、ご家族の安心にもつながるよう努めたい。

また今年度の介護報酬改正において、自立支援に向けた加算を取得できる体制を整えるためには、「科学的根拠に基づいた介護」の実践、フィードバックが不可欠である。そのため、専門性のある質の高いケアを実践し、収益アップにつなげたい。また、今後も継続的に技能実習生、特定技能生の受け入れがあるため、EPA 候補生も含めた外国人職員の教育体制の確保と共に、指導者にあたる日本人職員のスキルアップを目指していく。

1. 感染対策強化

昨年度に引き続き、検温・うがい・手洗い・消毒の徹底、マスクの着用、「一行為一手洗い」の励行をし、コロナ、その他の感染症予防に努めていく。また、看護師、感染症委員会とも連携し、感染症予防の研修を定期的に行う。

2. 家族様との信頼関係の強化

新型コロナウイルスの蔓延により、ご家族との面会が制限されている。昨年度に引き続き、Zoom などを活用したオンライン面会や日常生活の様子を撮った写真を添えた手紙を送付し定期的に報告していきたい。また、Zoom の利用が難しいご家族もおられる為、日々ご利用者の状態を観察し、変化があれば報告しご家族の不安の解消を図りたい。

3. 介護技術の指導強化

I. 介護技術研修部門の活用

介護技術指導担当者より、介護技術指導を要する職員を選定し現場での実践研修を通して指導を行う。また、各班の困難ケースをピックアップし、介護技術指導担当者と連携し、新しい介護技術や福祉用具の活用を検討し、職員の負担軽減に努めたい。

II. キャリアアップ支援と人材育成体制の充実を図る

ユニットリーダー研修、介護力向上講習会等、講習、演習を含めた外部研修への場合は、コロナ対策を徹底し、Zoom などを活用したオンライン研修への参加支援を行う。また、内部研修及び介護技術研修部門と連携し、介護の質・技術力の向上を図る。

Ⅲ. 内部研修 について

昨年度、外部研修への参加出来ず、伝達講習が実施できなかったため、今年度は介護技術指導者とも連携し、自立支援に向けた介護の基本を踏まえ内部研修として実施していく。あわせて、積極的に福祉用具などを活用し、一人にかかる負担の軽減を図る。また、看護師・理学療法士・歯科衛生士らと連携を図り研修を実施し、介護技術の向上に繋げ資質の向上を図りたい。

Ⅳ. EPA 候補生・技能実習生・特定技能生育成について

外国人職員の日本語学習においては、日本語勉強会を活用し、先生方とも連携を図ると共に、リーダー及び主任・相談員が、各所属班での状況把握、サポート体制を強化、継続して行っていく。日本語コミュニケーションの向上にむけ、就業年数に応じ、修得業務内容及び一介護職員としての責任をより明確化し、積極的にコミュニケーションを図らなければならない職場環境を作り、介護技術や知識の習得と合わせ進捗を確認していきたい。また、日本語能力試験、介護福祉士受験対策に力を入れ、対象となる職員の学習方法確認しながら学習のサポートを行っていく。

Ⅴ. 接遇について

コロナの発生、緊急事態宣言に伴い、長期にわたり面会自粛の状態が続いており、閉鎖的な環境となってしまうている。そんな中、ご家族が安心し、心からの信頼を得るためにモラルや接遇・コミュニケーション能力の向上は欠かせない。その為にも、介護技術の向上は勿論、言葉遣いや態度から接遇を見直し、ご利用者に対し尊重した温かい言葉かけ、対応ができるようにする。

Ⅵ. 介護ロボットなど IoT 及び ICT 活用について

昨年度整備した、眠りスキャン及び眠りスキャン EYE（見守りカメラ）、インカム（ナースコルト連動済み）を活用し、報連相の徹底、他職種含めた連携、

4. 有給取得強化について

昨年度は、コロナ禍により、リフレッシュ休暇を積極的に取得する動きが鈍ってしまったが、殆どの職員は取ることが出来ている。今年度は、計画的に年次有給休暇の5日以上の取得及び、生活支援休暇も活用したリフレッシュ休暇を全職員が取得出来るようにしたい。

5. 次期役職育成及び資格取得

Ⅰ. 次期相談員・主任・リーダー候補の育成

退職や産休育休職員のフォロー等による職員の異動にも対応出来るよう、次期相談員・主任・リーダー候補を選定し、それぞれの現役職者が育成を行い、質の向上を図り、レベルの底上げに繋げたい。

Ⅱ. 資格取得の向上

介護福祉士及びケアマネジャーの受験資格がある者については施設で確認し、積極的に受験要請を行う。また、受験者に配布されている問題等で疑問点がある場合には、質問等出来るような環境を整え、受験者が勉強する意識を高め、介護福祉士及びケアマネジャー資格取得率の向上を図りたい。

6. 各班目標について

【3階1班】

『レク行事の充実・職員間の連携』

産休育休に伴いリーダーが新しくなったため、外国人職員も含め、チームワーク強化を図り、意見交換、注意しあえる雰囲気づくりに努め、接遇・パフォーマンスの向上を図る。また、ご利用者に季節感を味わっていただける雰囲気づくりに努め、ご家族へもイベント等のご様子をお知らせし、面会できない不安感の払拭に努めたい。

【3階2班】

『他職種を含めコミュニケーションを密にとり、情報共有、観察力、介護技術の向上を図る』

リーダーが新しくなり、退職、産休育休に伴った異動により、日本人職員の減少、外国人職員の増加もあり、昨年同様介護技術不足、注意不足による事故発生が危惧される。また、褥瘡については、治癒・再発を繰り返している方がいたり、食事摂取についても、状態が増悪傾向にあり、安全に摂取して頂けるよう注意が必要である。今後も月1回のミーティングを含め、他職種とも連携し、コミュニケーションを密にとり、情報共有、観察力の向上、介護技術の向上を図りたい。

【4階1班】

『ご利用者に安楽を提供できるフロアづくり』

前年度より取り組んできた「ご利用者を観る」「理解する」ことを継続し、職員個々の観察力の向上を目指す。「観察できること」がご利用者の安楽に繋がるということを感じ、ケア内容を充実させ、ご利用者の満足度を上げる。

【4階3班】

『レク行事の充実・職員間の連携』

コロナ禍ではあるが、施設内での季節の行事、レクリエーションを行い、ご家族に写真などをご様子を報告し安心して頂けるようにしたい。また、班の職員間で共通認識を持って業務に取り掛かれるよう、コミュニケーション不足にならない様にしていきたい。

7. 収入の確保

ショートステイ・医務・病院の地域連携室との連携を行い入退院に向けたベッドコントロールやロングショートの確保を行い、空床をできる限り出さないように努めていく。入院については、長期入院を極力出さないよう、状態観察を強化し、医務と連携し、早期発見⇒早期入院⇒早期退院へと繋げたい。また、入所率 98%以上をキープすることを目指したい。入院ベッドの利用やロングから特養にスムーズに移行させるために、今年度もショート相談員と密に連携していく。

また、今年度の介護報酬改定に伴う LIFE への紐づけにより算定可能な加算についての情報を正確に収集し、適切に算定できるようにしていきたい。

支出として、外壁工事 30,000 千円を予定しているため、マイナス収支が予想される。

※令和2年度2月3月は予想である。 *収入は介護報酬の収入を記載 (単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	36,035	37,695	36,357	37,669	37,985	36,428	222,169
令和 3 年度収入計画	36,723	38,291	37,039	38,260	38,872	37,322	226,507
令和 2 年度支出	29,009	30,054	48,412	32,386	33,540	38,286	211,687
令和 3 年度支出計画	35,640	36,828	53,703	36,828	36,828	35,640	235,467
令和 2 年度収支差額	7,026	7,641	-12,055	5,283	4,445	-1,858	10,482
令和 3 年度収支差額計画	1,083	1,463	-16,664	1,432	2,044	1,682	-8,960
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	37,834	36,527	37,014	37,544	33,626	37,544	442,258
令和 3 年度収入計画	38,718	37,264	37,387	37,946	34,314	37,853	449,989
令和 2 年度支出	41,989	30,373	46,272	31,295	30,000	38,000	429,616
令和 3 年度支出計画	36,828	35,640	54,891	36,828	33,264	36,828	469,746
令和 2 年度収支差額	-4,155	6,154	-9,258	6,249	3,626	-456	12,642
令和 3 年度収支差額計画	1,890	1,624	-17,504	1,118	1,050	1,025	-19,757
令和 2 年度と令和3年度計画の収入比率				101.7%			
令和 2 年度と令和3年度計画の支出比率				109.3%			
令和 2 年度と令和3年度計画の差額比率				%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入に関しては、大きな収入の増加は見込めないが、LIFE の運用も含め新たに取得できる加算の体制が確定次第、確実に算定していきたい。支出に関しては、施設外壁工事を予定しているため、大幅な減収が見込まれる。

サンライフ御立ショートステイ

令和3年度 事業計画書（案）

今年「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を基度ささゆり会経営スローガンであるに、継続して感染防止に力を入れながら、ショートステイを初めてご利用された方にも「楽しかった」と思っていたくれるようなショートステイを作っていきたい。

1. 感染症対策強化

昨年度から引き続き、換気、手洗い消毒など基本の徹底、送迎時の検温と体調確認を行っていく。特養との行き来は出来る限り停止し、万が一の場合でも感染が拡がらないようにする。気温に合った衣類の着用、室温調整も全員が意識し徹底して行っていく。その他看護師、感染症委員会とも連携し、感染症予防の研修も定期的におこない、コロナその他の感染予防に努める。

2. 利用者の満足度の向上

泊りのサービスに抵抗をしめす方が多いが、安心して過ごしていただくよう積極的ににかかわりを持ち、「楽しかった」と思ってもらえるよう努め、繰り返しの利用に繋げていく。

I. 新規の受け入れ時には情報共有を行い、挨拶、自己紹介に始まり関わりを多く持ち、初回利用の不安軽減に努める

II. 楽しいと思える時間を増やす

- ・ 4月～9月は外出レクを企画する。フロア会議で各自がアイデアを出し合う。
- ・ 四季を感じられるイベントを一週間単位で行い、日替わりの利用に対応していく
- ・ 月一回のおやつ作りを実施する。企画の前後も楽しめる工夫をおこなう。
- ・ 写真を多く撮り、持ち帰って頂いて家族様に施設での様子が伝わるようにする。

II. 依頼を受けたケアの要望にきちんと応える。チェック表を貼る、物品の置き場を固定するなどの対策により全員が抜けのないよう実施できるようにする。

III. 安心して過ごせる場であることを第一に考え、声掛けや対応方法が適正であるか、毎月のフロア会議で振り返りをおこなう。周囲が聞いて不快になる声掛けはしないというルールをもって各自で注意しあえる環境を作る。

Ⅳ. 家族様とのコミュニケーションについて、コロナ禍による面会制限は今後も続くことが予想される。顔を合わせることが出来ない中での信頼関係構築のため、変化があった際のこまめな連絡や、手紙による近況報告、Zoom によるオンライン面会などをしっかりと行っていきたい。

3. 介護技術の指導強化

Ⅰ. 介護技術研修部門の活用

Ⅱ. キャリアアップ支援と人材育成体制の充実を図る

Ⅲ. 内部研修について

Ⅳ. EPA 候補生、技能実習生育成について

上記について、特養と共同で実施していく

4. 事故防止の取り組みを継続していく

ヒヤリハットを 1 日 5 件提出し、事故の発生を防ぐようにすることと、注意喚起のポスターの掲示を継続しておこなっていく。事故対策を考え実施したのち、適切な対策であるか 1 週間に一度振り返りの時間を設け同様の事故の防止に努める。

5. 有給取得強化について

計画的に年次有給休暇の 5 日以上を取得および生活支援休暇も活用したりフレッシュ休暇を全員が取得できるようにする。

6. 収入の確保について

コロナの関係もあって、収入の確保についてはショートとして厳しい状況が続いている。特養利用者の退所にもなうロング利用者の特養移行が月に 3～4 件あるため、ロング利用の待機者をより多く確保することが責務となる。特養相談員、主任と情報共有し、各方面に面談にいき待機者確保に力をいれていく。土日等の急な依頼にも出来る限り対応し、空床を出さないように努める。介護報酬改定にあたり、基本単位数のアップはあるが、新しく算定できる加算はない。現在取得しているサービス提供強化加算Ⅲの算定要件が厳しくなり、勤務年数 3 年以上の職員 30% 以上から、常勤職員が 75% に変更となる。現行算定出来ている加算を継続して算定出来るように、また、看護師の数が安定すれば看護体制加算Ⅱを取得できるように特養と連携していく。

※ 令和2年度2月、3月は予想である。*収入は介護報酬の収入を記入
(単位：千円)

[illegible]

特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

令和3年度 事業計画書（案）

今年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」に添って、以下の項目を軸として事業計画を立案する。

1. 新型コロナウイルス等の感染対策

I. 日常的な感染予防対策、標準予防策の実施

II. 委員会とも連携し、新型コロナウイルスを含めた感染症の基礎知識の普及を図る

新型コロナウイルスに限らず、感染症対策の基本は「一行為一手洗い」である。常時基本的な感染予防対策の啓発を行うと共に、知識や手技の定着を図る。また、ワクチン接種に向けて体制の整備や摂取後の対応についても適宜対策を検討し講じていく。

現在海外職員の割合も増加しており、必要時には感染症委員会とも協力し各々の理解度に合わせて直接指導していく。

感染症対策物品の管理を行う。

2. ベッド稼働率の維持（経営力強化）に向けて

I. 入所者様の健康診断を年1回実施する。嘱託医の指示のもと、診断結果から潜在性疾患の検索や異常の早期発見・早期治療を図り、ベッド稼働率の維持（目標値 98%以上）を目指す

II. 嘱託医からの事前ルーチン指示や早期の受診件数の増加を図り、入院数の軽減を目指す

入所者様の高齢化や平均介護度の上昇に伴い、急変や短期間で状態悪化するケースが増加している。その中で稼働率の維持を目指すためには、日頃からの観察や多職種との意見交換が大切となってくる。介護職員と協働してケアや処置を実施するなど多職種と連携を深めることによって、多角的な視野で入所者様の健康維持ができるよう努める。

3. 職員の健康増進

I. 職員健康診断を産業医、医師会協力のもと年1回（深夜業に従事するものは2回）実施する

II. 人間ドック助成やオプション健診対象者については、健診への呼びかけを行い受診率の向上を図る

自身の健康状態への関心を高めるために各種健康診断の重要性を適宜啓発する。また、要検査や要受診の診断ある職員については、個別に書類を配布することで受診を促し、安全に就労できるようはたらき掛ける。

特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

令和3年度 事業計画書(案)

前年度は人員3名増員したが、2名異動・1名退職と人材の定着には至らなかった。

今年度は、人材の定着・育成を図り、献立の充実や美味しい食事の提供に努める。

また、前年度はコロナウイルス流行の影響で行事が中止となり、季節ごとの行事が行われなかった。そのため、今年度は外出自粛状況でも利用者様に楽しんでいただけるように新メニューの追加や食事・おやつレクリエーション等厨房からの提案を積極的に行っていきたい。

1. 人材の定着・育成

前年度は、人員3名増加したが2名異動・1名退職と人員定着には至らなかった。

そのため人員が補充され次第早急に引継ぎ業務を行う。また引き継ぎ時間の短縮、時間外労働の削減につなげるために、事務作業のデータベース化・業務役割分担の細分化などを行う予定である。

2. 食事サービスの充実

前年度は、調理技術も安定しており、常勤のものは調理業務がほぼ遂行できるようになった。今年度は、引き続き職員の調理技術の向上を図り、利用者様への嗜好調査の結果も踏まえた献立作りを心がけていきたい。また、新しい業者との契約を検討しており、新しいメニューや材料を取り入れた献立を利用者様に提供していきたい。

3. 衛生管理

前年度は、配膳車に害虫が入り込む事態が相次ぎ、苦情を数件頂くことになった。今年度は前年度のようなことがないように、害虫が発生する前に害虫駆除対策を行うようにしていく。また異物混入の事例は前年度より件数は減少した。引き続き、異物混入のないように注意を払っていく。

清掃業務で使用する備品の劣化が見られるようになったため、早急に補充を検討していく。

デイサービスセンターサンライフ御立

令和 3 年度 事業計画書（案）

令和 3 年度経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を基に、感染症防止に力を入れ利用者様が安心安全に利用できるデイサービスを目指していく。また今年度の介護報酬改正により自立支援に向けての加算を取得できる体制を整え収益アップにつなげていく。

1. 感染症対策

昨年度に引き続き送迎時の検温を実施しデイサービス内でのうがい、手洗い、消毒の励行し感染症予防に努めていく。また家族様、ケアマネとの連携を図り体調不良の早期発見に努めるとともに不安を取り除けるよう相談に応じていく。そして職員からの感染を防ぐためにも日ごろから感染症対策を行い、密を避けた行動を取ることを継続していく。

2. 加算の算定について

介護報酬改定により基本報酬は平均 0.7%の引き上げだが、加算に関しては自立支援に向けた算定要件になっており今までの加算のみでは減収の可能性が高くなっている。算定には計画書の作成、提出が盛り込まれた加算が増えていることから新たな計画書作成ソフトの導入を検討し加算が取得できる体制を整えていく。サービス提供体制強化加算については新設Ⅰが算定可能となっているが算定条件が勤続 10 年以上となっているため、継続して算定できるよう職員の雇用維持に努めるとともに介護福祉士取得に向けて支援していく。

3. サービス内容の向上について

利用者様の介護度の差が大きく利用者様に合わせたサービス内容を検討していく必要があり、昨年度の家族様アンケートでも希望があったリハビリを目的としたサービスを増やしていけるよう取り組んでいきたい。また、個別リハビリの幅を広げ楽しみながら取り組める内容を検討していきたい。

4. 職員の確保について

現在入浴介助の職員が不足しており少ない人数で介助を行っている。また重度の利用者様が増えてきており負担が大きくなっている。職員の平均年齢も上がってきており無理なく長期的に働いていただけるよう継続的に職員の確保に努めていきたい。

5. 利用者の確保について

重度の利用者様が多く在宅生活の継続が難しくなり施設入所や入院による利用終了者が多く、またコロナ感染症拡大により新規利用者様が減り利用者様の確保ができない状態にあった。今年度は新聞などを作成しケアマネや家族様にサービス内容のアピールを行うとともに現在利用していただいている利用者様が継続して利用していただけるようサービスの向上に努めていきたい。

※令和２年度２月３月は予想である。 *収入は介護報酬の収入を記載 (単位：千円)

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
令和２年度収入	4,045	3,806	3,780	3,713	4,038	4,640	24,022
令和３年度収入計画	4,292	4,408	4,426	4,666	4,503	4,565	26,860
令和２年度支出	3,822	3,741	5,248	4,154	3,939	3,298	24,202
令和３年度支出計画	3,822	3,741	5,248	4,154	3,987	3,535	24,487
令和２年度収支差額	223	65	-1,468	-441	99	1,342	-180
令和３年度収支差額計画	470	667	-822	512	516	1,030	2,373
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和２年度収入	4,657	4,149	4,002	3,839	3,530	3,814	48,013
令和３年度収入計画	4,626	4,691	4,821	4,357	4,182	4,846	54,383
令和２年度支出	3,460	3,305	6,128	3,415	3,230	3,430	47,170
令和３年度支出計画	3,698	3,826	5,593	3,514	3,714	3,698	48,530
令和２年度収支差額	1,197	844	-2,126	424	479	973	843
令和３年度収支差額計画	928	865	-772	843	468	1,148	5,853
令和２年度と令和３年度計画の収入比率				113%			
令和２年度と令和３年度計画の支出比率				103%			
令和２年度と令和３年度計画の差額比率				694%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入に関しては介護報酬改定によりわずかながら収入増に繋がるが新規利用者獲得が重要になってくる。

支出に関しては人件費の増加や修繕費がかかるため増加が考えられる。

差額に関しては収入に対して支出が前年度とあまり変わらないと考えており比率が大きくなっている。

●令和3年度予想利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度実績	20.4	18	18.8	17.8	19.3	21.3	115.6
月合計(人)	531	468	488	479	501	553	3020
令和3年度目標	19	19.7	19.8	20.1	20.1	20.4	119.1
月合計(人)	494	512	515	543	523	530	3117

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度実績	21.1	20	18.8	18.9	18.2	18.2	19.2/月平均
月合計(人)	568	501	506	454	436	491	5976
令和3年度目標	20.7	21	20.9	20.3	20.3	21	20.3/月平均
月合計(人)	538	549	564	508	487	567	6330

(令和2年度2月3月 予想)

ケアハウスサンライフ御立

令和3年度 事業計画書（案）

1. 事業計画策定

経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」「元気に老いるために何をすべきか」

- I. 昨年度打ち立てた計画は、新型コロナウイルス感染拡大で殆どが実行できないで時間が経過した。その為、コロナ禍においてフレイル状態に陥っている入居者は複数存在する。現状を改善する事を重点目標にしたい。只、新型コロナウイルスの感染状況に左右されるのは否めない。十分な感染予防対策を講じながら焦らずに徐々に各行事、教室を元の状態に戻すことを目指す。

誰もが平等に、毎年一つずつ歳を重ねていく。元気に老いるための、歳の重ね方を一年間の課題にしたい。入居者の大半が、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間に位置していると考えられる。

加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能の障害、心身の脆弱性が認められる。

この1年、職員が介入・支援をどう進めていくのが良いかを考えていきたい。入居者と共に生活機能の維持向上を目指したい。

- (1) 入居者1人ひとりが、現在の身体状態を把握する。また、測定及びチェックを定期的に実施し変化を認識してもらう。

健康チェック	現行、2回/月	実施	継続
体力測定	現行、2回/年	実施	継続
骨密度測定	2回/年	実施予定	新規
フレイルチェック	2回/年	実施予定	新規
口腔内チェック	2回/年	実施予定	新規
健康診断	現行、1回/年	実施予定	新規

- (2) 予防の為の対策

いきいき百歳体操及びラジオ体操	現行、月～金曜日(午前9:15～)
学習療法	現行、1回/週
各種教室の実施	
現行、「フラワーアレンジメント教室」「手作り教室」	
新規で「カラオケ教室」「運動教室」	
行事の実施	
現行、「誕生会」「ふれあい喫茶」「外食・バスハイク」「買物の日」を	
継続実施したい	

Ⅱ. 収支目標

収入については、空室の期間を出来る限り短期間にして満室状態を維持する事が大切である。万全な新型コロナウイルス感染防止を心がけ待機者の確保も継続的に行い、スムーズな入退去とする。

支出に関しては、経年劣化による補強や取り替えが予想される（コピー機及び緊急時対応の設備等）。

※令和2年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	3,129	2,936	3,147	9,350	9,712	2,921	31,195
令和 3 年度収入計画	3,147	2,934	3,156	9,160	9,576	2,920	30,893
令和 2 年度支出	3,972	3,168	4,917	3,299	3,942	3,164	22,462
令和 3 年度支出計画	4,810	3,560	4,400	3,560	3,560	3,560	23,450
令和 2 年度収支差額	-843	-232	-1,770	6,051	5,770	-243	8,733
令和 3 年度収支差額計画	-1,663	-626	-1,244	5,600	6,016	-640	7,443
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	3,140	2,961	3,210	2,960	9,009	2,960	55,435
令和 3 年度収入計画	3,142	2,959	3,223	2,956	9,400	2,836	55,409
令和 2 年度支出	4,164	3,421	4,448	3,877	3,702	3,702	45,776
令和 3 年度支出計画	4,810	3,560	4,410	3,560	3,560	3,560	46,910
令和 2 年度収支差額	-1,024	-460	-1,238	-917	5,307	-742	9,659
令和 3 年度収支差額計画	-1,668	-601	-1,187	-921	5,840	-724	8,182
令和 2 年度と令和 3 年度計画の収入比率				99%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の支出比率				102%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の差額比率				85%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
収入について、昨年末より立て続けに 3 名の退去者がありその影響が今年度に及んでいる。重ねて、新型コロナウイルス感染予防もありスムーズに新規入居者が決まらない為、減額となる見通しである。 スムーズな入退去を心掛け、増額を目指したい。							
支出については、経年劣化による補強や取り替えが予想される。							

2. 職員の健康増進

生活支援休暇及び年次有給休暇の取得については、勤務表作成前に希望休を募り業務に支障をきたさない様とる。

3. 介護福祉士、介護支援専門員の資格取得

本年度は、該当者なし

ユニット型老人ホームサンライフひろみね

令和3年度 事業計画書（案）

今年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を基に、ワクチン接種や感染予防に努める事で失われた普通の日常生活を再開できるように努めたい。ユニット型施設のメリットを最大限に発揮できるように業務効率の向上をめざし「個別ケア」の充実を図る。新型コロナウイルスの影響で面会や外出制限を行い有事の対応を行っている。職員への研修内容を充実したものにしてよい高い質のケアを提供する。

1. 科学的介護の実践について

科学的根拠に基づきながら質の向上に努める。

- I. ささゆり会で取り組んでいる日中おむつ外しを継続して取り組むことで、日中おむつ率0%を目指し個人の尊厳を守り尿路感染やスキントラブルの防止に努める。
- II. 常食率の向上を引き続き目指す。KTバランスチャートを使用し「口から食べる」ためのアセスメントを行い評価や変化を可視化し利用者様の食べる能力の維持・向上を目指す。
- III. 統計を出し数値化することによって職員の目標設定を具体化する。

2. 看取り介護について

看取り介護に対する需要が高まる中で医師・看護師・管理栄養士・介護士・介護支援専門員等専門職間での連携を強めることで満足のいく最期を看取ることができるように支援していきたい。また、デスカンファレンスや施設内研修を実施することで職員の精神的な負担の軽減を図り質の向上に努めたい。また医療的ケア（喀痰吸引等2号研修）も引き続き受講を進め、安楽に過ごせる環境の整備に努める。

3. 職員の労働環境の整備

職員が誇りに思える、かかわる人たちに自慢できる職場となることが、職員のやりがいや成長につながり、人材確保、定着にもつながる。

- I. 昨年度同様、連続リフレッシュ休暇が確実に取得できるように職員の希望を3月に聞き計画的に進める。又、有給休暇も適正に消化できるように配慮する。
- II. 働きがいのある職場づくりのため、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、職員が将来にわたって能力を発揮しささゆり会に貢献できる環境を整える。離職防止に努め、働きやすい職場環境の整備を図る。又、過重労働による健康障害を防止す

るため、労働時間の適正管理の徹底を行う。

- III. 労災事故のゼロを目指す。小規模特養に応じた適正な職員配置を心掛けながら、介護機器の導入や「楽技」の導入及び研修を勧める事で介護職員の負担軽減に努めたい。
- IV. ミャンマーからの特定技能実習の実習生受け入れや介護及び看護学校の実習生受け入れ、新人職員が不安を軽減できるように、環境整備や指導体制を整え施設全体でバックアップする体制を築く。介護内容を簡素化できるように検討し写真や動画を活用し目で見て理解できるようにしていく。

4. 職員教育・組織体制作りについて

経験が浅く技術に不安がある職員に対して、質の高いサービス提供ができる職員を育成する実技研修を法人で取り組みレベルアップも図り、安全で質の高いサービス提供に繋げたい。

- I. 外部研修への参加機会を増やし介護技術の向上及び職員のモチベーションを高め施設サービスの活性化を図りたい。
- II. 介護福祉士受験者が2名いる為、学習の進捗状況を把握し勉強会に参加できる環境を整える。
- III. 人員募集を随時行い優れた人材を確保できるように努める。
- IV. 新入職員へ認知症の研修やマンツーマンでの実技指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境作りを目指す。
- V. 職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるように月1回のユニット会議に加え緊急時のユニット会議を設ける。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、リーダー会議を継続していく。

5. 地域貢献について

- I. 新型コロナウイルスの3密回避のため書面での運営推進会議を実施しているが、感染状況に応じて施設内での推進会議が開催できるように努めたい。
- II. 地域の方と交流をもつため地域行事へ参加する。
- III. 地域の防災訓練に参加したり地域住民に当施設での避難訓練に参加してもらうことで災害時の連携体制を整える。
- IV. 姫路市医師会看護専門学校の看護実習や龍野北高等学校の介護実習を受け入れることで地域医療の発展や人材育成に貢献する。

6. 介護統計について

令和3年度介護状況目標

項目		令和3年2月末状況	令和4年3月末目標
日中オムツ使用率		1名(3%)	0名(0%)
入浴統計	特浴	2名(7%)	2名(7%)
	リフト付個浴	27名(90%)	27名(93%)
	個浴	0名(0%)	0名(0%)
食事形態	普通食	22名(79%)	22名(79%)
	刻み食	0名	0名
	極刻み食	3名(11%)	3名(11%)
	ミキサー食	2名(7%)	2名(7%)
	経管栄養	0名	0名
褥瘡者		0名(0%)	0名
身体拘束		0名	0名
看取り介護実施 ※		5名(83%)	(100%)

※看取り介護実施率=看取り介護実施者／全退所者（急死を除く）

7. 事業運営について

体調管理を行い早期発見早期治療をすることで入院予防に努め、定期的に訪問調査を行い退所後の空室を作らないように努める事で99%以上の稼働率を目指したい。個人情報保護に留意しながらインスタグラムを活用し施設の情報発信に努め開かれた施設運営に努めたい。新型コロナの流行が治まるまではリモート面会を継続することで家族との関わりが途切れないように支援したい。管理栄養士を配置することで食事環境の充実化を図り褥瘡予防マネジメント加算や栄養マネジメント強化加算を算定することで人件費増に伴う費用補填に努めたい。屋上の痛みが激しく雨漏りがする為修繕費がかさむ可能性がある。防犯強化の為、共用部にカメラを導入して行く予定である。介護ソフトを有効活用し、新設された加算の算定要件の確認を行い、要件を満たせばすぐに算定することで収入増加につなげたい。

年間収入目標

※令和2年度2月3月は予想である。 *収入は介護報酬の収入を記載

(単位:千円)

[illegible]

デイサービスサンライフ田寺

令和 3 年度 事業計画（案）

令和 3 年度のささゆり会経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」から、職員一人一人が感染予防に対して強い意識を持ち仕事を行っていく。

また、本年度は介護保険制度の改定があり、ICT を上手く活用することで算定できる加算や人員配置の緩和による加算の算定が可能となる見通しである。

収支については、ZUMBA【ダンスフィットネス】を取り入れ、楽しく機能訓練するあらたなサービスを導入し、利用満足度を上げる。また自己負担サービス等も導入し、ニーズに応じたサービスを行い利用人数の増加を目指す。

職員に対しては、残業時間の減少、有給休暇の取得をしっかりと行うと共に、備品などの手入れ・管理を徹底することで、1,200 万円以上の利益を目標とする。

1. 利用者数の確保

ZUMBA（ポップな音楽に合わせて、全身の筋肉強化と心肺機能の維持向上に有効）を中心に個人個人の能力に応じたレクリエーションの提供を行い、利用者の満足度を上げると共に、SNS 等を活用し積極的に情報発信する。

2. 職員の休暇取得について

年次有給休暇や支援休暇を取得できる環境であり、本年度も人員を維持していく。通常業務においても個人個人がしっかりと時間内に仕事を終了し、疲労感をためないようにしていく。また、感染症などの知識を身に付け、自身の体調管理と蔓延化を予防する。

3. サービスの向上に向けた職員の教育

外部の研修はなかなか実施できない状況であるため、ズームなどを使用して参加を促していく。

4. 収支について

収入としては、コロナウィルスによる利用者減の影響を抑制するため、取得できる加算を可能な限り算定していく。支出としては、リハビリ職採用による人件費の増加、修繕費が大きくなると予想される。

5. 加算の算定について

加算の算定については年度中旬には、新設の入浴介助加算(55 単位)と個別機能訓練加算Ⅰ(イ)を算定できるように準備を行っていくとともに、LIFE の活用による科学的介護推進体制加算の取得を目指す。

6. ふれあいレストラン「レストランテヴォーノ田寺」

コロナ禍で地域の状況や感染状況を把握し、職員やボランティアへのリスクがない程度に開催していく。

(単位:千円)

[illegible]

令和3年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度実績	23.6	23.5	28.04	28.08	25.78	25.9	25.8/月平均
月合計（人）	590	635	729	730	696	648	4,028
令和3年度目標	26	26	27	27	27	26	/月平均
月合計（人）	676	702	675	729	702	650	4,134

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
令和2年度実績	27.1	25.54	25.73	24.88	25.75	26.5	25.9/月平均
月合計（人）	732	664	669	622	537	689	7,941
令和3年度目標	27	26	25	25	25	26.5	25.7/月平均
月合計（人）	729	676	650	675	600	689	8,153

※令和2年度実績2月3月は予想です。

ふれあいレストラン「レストランテヴェーノ田寺」

※令和2年度2月3月は予想である。

●令和3年度収支計画

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度 収支実績				-8,030	-7,474		-15,504
令和3年度 収入計画	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	12,000
令和3年度 支出計画	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	66,000
令和3年度 収支計画	-9,000	-9,000	-9,000	-9,000	-9,000	-9,000	-54,000
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度 収支実績		-5,441	-22,267				-43,212
令和3年度 収入計画	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	24,000
令和3年度 支出計画	11,000	11,000	50,000	11,000	11,000	11,000	171,000
令和3年度 収支計画	-9,000	-9,000	-48,000	-9,000	-9,000	-9,000	-147,000

ヘルパーステーションサンライフ御立

令和3年度 事業計画書（案）

コロナ禍、世の中が窮屈な生活を強いられる中であっても「住み慣れた我が家で生活したい」との利用者様のご希望に最大限寄り添い、ヘルパーが訪問することで、生活環境だけでなく、心身ともに潤いを与えられる・・・そんな事業所を目指し、全員が責任ある行動をとる。そして、職員・登録ヘルパーが働きやすいと感じる職場環境作りを継続し、業務とプライベート双方にて充実させ、今年度目標である「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」を念頭に、全員での方向性の確立。より一層の事業所全体での介護力向上に努めていきたい。

1. 人材育成・介護力向上に向けて

前年度に引き続き、全体での内部研修・個人面談(前年度は、毎月、密を避ける為少人数研修を数回)は継続して行う。

ヘルパー個人の到達度レベルをしっかりと把握する事。更に利用者様の変化にいち早く気付くことの出来る「観察力」「聴く力」を習得し、「コミュニケーション能力」の向上に努める。

今一度、初心に戻り、訪問介護はチームワークである事を徹底する。利用者様は勿論、ヘルパー同士お互い信頼関係を築き、足りない所を補い合える関係性の構築。一人ひとりがヘルパーステーションの看板を背負い、サービスさせて頂いている事に、絶対的なプロ意識を持つ事への周知。初回の職員との同行訪問は勿論、職員の利用者様宅へ伺う機会を増やし、援助内容・到達度・把握レベルの確認・利用者様からの声の聞き取り。現状に満足せず、今後のサービスに繋がられる様な課題をしっかりと提供し、ヘルパーが訪問する上での不安を払拭出来るサポート体制の確立に、共に取り組んでいきたい。

2. 収入確保への取り組み

コロナ禍にて営業活動が思う様に行えない中、毎月発行の「ヘルパーステーション通信」を活用し引き続き、事業所の魅力を最大限お伝えするように努める。研修の実施状況・新規訪問可能時間等伝え、内部発信も怠らない。今以上の収入増及び利用者増を実現するには、登録ヘルパーの確保・サービス提供責任者の増員も視野に入りたい。

3. 有給休暇取得への取り組み

積極的に取得できる雰囲気・環境作りを継続した上で「ヘルパーは忙しくてなかなか休みづらい」という概念を捨て、「申し訳ない」と思わなくてもいい、当然の権利としての取得に向け、引き続き意識の改革を行う。仕事への活力・気分転換・心身の疲労回復・何より自身の健康増進の為に、他の職員に気兼ねし後ろめたい気持ちにならなくても良い更なる環境作りを目指す。「個々で責任をもって休暇計画を立てる。」「休暇期間の業務の引継ぎ、代理訪問をスムーズに進める」。しっかり休み、そしてしっかり仕事へと向き合えるバランスの取れた職場環境へとより一層変革していきたい。

何より訪問先へは、不要な物を持ち込まない！重症化する恐れのある高齢者宅への訪問を担っていることを今一度自覚。そして、何より自身の体調管理についてはしっかり責任を持つことが大前提ではあるが、万が一の際にも、安心して働き安心して休むことの出来る環境整備・心身共にサポートできる体制作りの強化も必要ではないかと思う。（休暇中の賃金保障・代理訪問・不安を拭い去る検査等）

※収入は介護報酬の収入を記載。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	3, 518	3, 345	3, 604	3, 539	3, 605	3, 672	21, 283
令和 3 年度収入計画	3, 550	3, 600	3, 620	3, 600	3, 620	3, 700	21, 690
令和 2 年度支出	2, 335	3, 065	4, 256	2, 359	2, 535	2, 597	17, 147
令和 3 年度支出計画	2, 400	3, 100	4, 200	2, 400	2, 600	2, 600	17, 300
令和 2 年度収支差額	1, 183	280	-652	1, 180	1, 070	1, 075	4, 136
令和 3 年度収支差額計画	1, 150	500	-580	1, 200	1, 020	1, 100	4, 390
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	3, 658	3, 653	3, 670	3, 679	3, 300	3, 650	42, 893
令和 3 年度収入計画	3, 680	3, 700	3, 700	3, 680	3, 600	3, 650	43, 700
令和 2 年度支出	2, 356	2, 399	3, 981	2, 466	2, 500	2, 500	33, 349
令和 3 年度支出計画	2, 400	2, 400	4, 000	2, 500	2, 500	2, 500	33, 600
令和 2 年度収支差額	1, 302	1, 254	-311	1, 213	800	1, 150	9,544
令和 3 年度収支差額計画	1, 280	1, 300	-300	1, 180	1, 100	1, 150	10,100
令和 2 年度と令和 3 年度計画の収入比率				102%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の支出比率				101%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の差額比率				106%			

支出は、若干の人件費増は計上したものの、車検予定・大型備品、消耗品購入予定も特段なく、前年度と大きく変わりはないと見込まれる。

サンライフ御立居宅介護支援事業所

令和 3 年度 事業計画書（案）

年間目標

経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」に対し、感染症対策を行いながら利用者様に必要なサービスが届くよう、不利益が生じないよう支援することを目標とする。

収入については、常勤 3 名非常勤 1 名の 4 人体制については変わらず、担当件数も上限を維持しており、増加は難しい。

支出については、年々増加しており、支出が収入を上回ることが予想される。

1. 担当利用者・収入の確保

4 名体制で担当者数の上限を超えている状態である。しかし、入院や終了等も多く、定期的に利用状況を把握し新規依頼時にもすぐに動ける体制を整える。担当の利用者様からの紹介等も積極的に受け入れるようにし、特に地域の方の相談等も迅速に対応できるよう努める。

2. サービスの質の向上

サービスの質の向上のため、要件をみたした職員から順次主任ケアマネジャーを取得するよう心がける。

また、援助を進めていくにあたり困難なケースや問題点がでてきた時等、事業所内で話し合いを行う場をつくり、また、各地域包括支援センターと連携を取り、情報共有を行うことで精神面でのケアと援助がスムーズに行えるよう努める。研修会等にも積極的に参加するよう心がけ最新情報等は事業所内で共有できるよう情報交換共有を行う。

3. 有給休暇の取得について

年次有給休暇の 5 日取得に加えて休みがとりやすい環境を整えることで、リフレッシュできる機会をもつ。きちんと取得するため定期的に声掛けを行う。

4. 特定事業所集中減算の回避

訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみが対象。減算にならないように現在もグループ内に加え、他事業所の紹介を行っている。引き続き減算にならないよう注意し各事業所からの情報等を収集しておき、紹介できるようにしておく。

5. 介護予防支援

令和 2 年度は、地域包括支援センターからの依頼が増えた。今後も要支援の担当依頼が増えると予想される。事業所内の状況を考え担当することで、要介護者の新規依頼にも繋げたい。令和 3 年度も引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を行い新規獲得に努める。

6. 年間収支の予測

※令和2年度2月3月は予想である。

*収入は介護報酬の収入を記載

(単位:千円)

[illegible]

デイサービスサンライフ安室

令和3年度 事業計画書（案）

「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう!!」をスローガンに介護報酬改定に対応しながら、利用者様に選ばれるデイサービスになるよう職員一丸となって取り組んでいきたい。そして、職員が働きやすい職場環境を整え、健康で長く勤めてもらえるよう、有給休暇の取得や職員研修、業務でのICTの活用を図っていく。

また、営業活動による利用者数の確保や、利用者対応を丁寧に行うことで、利用登録者数の増加を目指し、収入の増加を図っていききたい。

1. サービス内容の向上

新型コロナウイルスの感染拡大防止を図りながら、利用者様に楽しんでいただけるレクリエーションやサービスを目指す。外出への希望があるが、感染症拡大への懸念の為、人との接触を避けた場所への外出を企画し、実施していきたい。また、昨年度2月より移動スーパー「ふれあいのマルシェ」に月に2回来ていただき、好評を得ている。移動スーパーを活用し、普段外へ買物に行けない利用者様に利用していただき、気分転換を図る機会を提供する。

施設内では、普段行うゲームの他、習字や手芸、工作や飛沫防止に配慮した音楽レクリエーションを取り入れ、楽しんでいただけるサービスを考えていきたい。

2. 職員の質の向上・健康増進

感染症・災害への対応やハラスメント対策、高齢者虐待防止の強化が、令和3年度の介護報酬改定の強化事項として上がっているため、職員研修や計画等の作成、訓練の実施を行っていく。また、全職員が有給休暇を最低5日以上取得できるよう、なるべく、年度前半に職員へ有給休暇を取得するよう呼びかけ、業務にも支障が出ないようにし、職員が安心して休める環境を整えていきたい。

3. 業務でのICTの活用

介護ソフトやタブレット端末を活用することで、記録や情報共有、ケアマネや他事業所との連携に活かせるよう、同法人の他デイサービスと検討しながら業務の効率化を図っていききたい。

4. 介護報酬について

今年度の介護報酬改定で、個別機能訓練加算の単位数の変更や入浴介助加算の算定要件の変更、厚生労働省へ必要なデータを提出することで算定できる加算が新たに増える。

前年度に算定していた加算は継続して算定し、新設の加算の算定も行えるよう、要件を確認しながら算定に向け準備をしていく。

コロナ禍ではあるが、見学や問い合わせに対して丁寧に対応し、新規利用者様を逃さないよう気を引き締めて業務にあたり、収入増を目指していく。

支出については、デイサービスが開設してから 9 年が経過し、10 年目に入る。施設内で修理が必要な機器や買い替えが必要な物が多くなってきており、支出がさらに増えることが予想される。なるべく時期が重ならないようにすることや、できるだけ修理をすることで長く使い、支出を抑えていきたい。

令和 3 年度予想利用人数

(単位:人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度実績	27.2	27.2	31.2	31.3	30.6	30.6	29.6／平均
月合計	708	707	812	846	797	795	4,665
令和 3 年度予想	27	27	27	28	28	28	28.4／平均
月合計	702	702	702	756	728	728	4,318

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度実績	29.9	28.5	27.3	26.3	28.5	28.5	28.9／平均
月合計	806	712	738	630	684	769.5	9004.5
令和 3 年度予想	28	27	27	26	27	27	28.4／平均
月合計	728	702	729	650	648	729	8,504

令和 2 年度 2・3 月は予想です。

※収入は介護報酬の収入を記載

※令和 2 年度 2 月 3 月は予想である。

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	5,681	5,888	6,618	6,896	6,688	6,603	38,374
令和 3 年度収入計画	6,024	6,021	6,021	6,534	6,268	6,268	37,136
令和 2 年度支出	4,743	5,352	6,255	4,902	5,607	5,529	32,388
令和 3 年度支出計画	4,959	4,959	5,988	4,959	4,959	4,959	30,783
令和 2 年度収支差額	938	536	363	1,994	1,018	1,074	5,986
令和 3 年度収支差額計画	1,065	1,062	33	1,575	1,309	1,309	6,353
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	6,719	5,938	6,077	5,409	5,727	6,513	74,757
令和 3 年度収入計画	6,268	6,021	6,278	5,527	5,508	6,278	73,016
令和 2 年度支出	4,937	4,676	5,859	4,810	4,967	4,967	62,604

令和３年度支出計画	5,158	4,959	5,789	5,158	4,959	4,959	61,765
令和２年度収支差額	1,782	1,262	218	599	760	1,546	12,153
令和３年度収支差額計画	1,110	1,062	489	369	549	1,319	11,251
令和２年度と令和３年度計画の収入比率				96%			
令和２年度と令和３年度計画の支出比率				98%			
令和２年度と令和３年度計画の差額比率				92%			
収入・支出・差額についての管理者意見							
(収入について)							
基本報酬は増加するが、加算によっては減少するものもあり、要件を見つつ、算定できる加算を増やしていきたい。							
(支出について)							
前年度にパソコンや電話工事などの大きな支出があったため、今年度の支出計画は前年度に比べ２％減となっている。							
(収支差額について)							
収入の大幅な増加が見込まれない為、前年度に比べて８％減となっている。							

姫路市安室地域包括支援センター

令和 3 年度 事業計画書（案）

令和 3 年 4 月に介護保険報酬の改定があり、予防支援については、変更となる部分は少ないが、感染症や災害への対応力も強化できるよう取り組んでいきたい。団塊の世代が後期高齢者となると言われる 2025 年ももう目前となり、2040 年問題へと焦点が変わり始めており、地域包括ケアシステムの推進は引き続き重要課題となっている。

高齢者虐待疑いの通報が増加しており、コロナ禍による外出自粛要請が長期化することで、高齢者本人や家族等の負担が増すことにより、高齢者虐待が発生し深刻化するリスクが高まることも考えられ、今年度も多数の通報が予測される。また、同居の障害者家族や DV 相談等問題も多様化しており、姫路市高齢者虐待等マニュアルに基づき（虐待疑いの場合には）、市や中央保健福祉センター等関係機関と連携をとり、対応していく。困難事例等に関しては、ホワイトボードを使用し、可視化して事例検討を行い、情報の整理と課題抽出を行っていく。

姫路市でも各地区で生活支援体制検討会議の開催をすすめており、昨年度は安室校区で第 2 回を開催し、今年度も前進した会議の開催をすすめたい。安室東校区は今年度も引き続き、連合自治会長への働きかけから継続していきたい。

事業所内連携については、今年度も引き続き毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、地域役員からの情報、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行っていく。また、月 1 回の職員会議を継続して行い、毎月 1 人ずつ担当者を決め、主催してもらうことで、各職員のスキルアップにつなげていく。

研修については、研修案内を事業所内で回覧し、受講したい研修があれば受けることができるようにしている。コロナ禍の影響により、オンラインで受講できる研修も増えており、うまく取り入れながら、必要な研修を受けることで、事業所全体でのスキルアップにつなげる。

認知症カフェについては、昨年度、姫路市への登録の基準が変更となり、基準が厳しくなり、書類等も煩雑となったが、2 件が姫路市に登録している。コロナの影響で開催自粛しているが、再開時には、支援を継続し、認知症予防、早期発見、啓発に取り組んでいく。

いきいき百歳体操については、安室・安室東校区全自治会での開催が達成できており、開催グループの増加は見込めないが、後方支援をしっかりと行い、長期休みの方の状況確認や、フレイルチェック等取り組んでいきたい。

介護予防については、昨年度コロナの影響で中止となった安室東公民館での介護予防講座を今年度は開催予定しており、他サービス事業所と連携し、多くの地域住民が参加してもらえるよう検討している。安室校区でも開催できるよう企画していきたい。昨年度はコロナ禍で実施できなかった安室地域包括支援センター圏域のサービス事業所連絡会の開

今年度も、センター便りを 3 ヶ月に 1 回、地域役員向け活動報告書を 2 ヶ月に 1 回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んでいきたい。昨年度は、個人医院・クリニックや歯科医を中心に地域回りをを行った。今年度も引き続き地域回りを継続し、地域との連携強化に努めていく。

※収入は姫路市からの委託料・介護報酬の収入を記載。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	2,636	2,657	2,702	2,672	2,694	2,694	16,055
令和 3 年度収入計画	2,752	2,762	2,772	2,760	2,756	2,765	16,567
令和 2 年度支出	2,090	2,222	5,545	2,144	2,310	2,531	16,842
令和 3 年度支出計画	2,200	2,300	5,500	2,200	2,200	2,300	16,700
令和 2 年度収支差額	546	435	-2,843	528	384	163	-787
令和 3 年度収支差額計画	552	462	-2,728	560	556	465	-133
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	2,740	2,707	2,701	2,676	2,690	2,687	32,256
令和 3 年度収入計画	2,795	2,785	2,782	2,787	2,795	2,782	33,293
令和 2 年度支出	2,285	2,195	4,722	2,259	2,300	2,300	32,903
令和 3 年度支出計画	2,300	2,200	4,750	2,300	2,300	2,300	32,850
令和 2 年度収支差額	455	512	-2,021	417	390	387	-647
令和 3 年度収支差額計画	495	585	-1,968	487	495	482	443
令和 2 年度と令和 3 年度計画の収入比率				103%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の支出比率				100%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の差額比率				168%			

- ・担当圏域の高齢者数が 6000 人を超えており、早急に基本職員の増員が必要だが、応募がない状態が続いており、今年度も引き続き求人を継続していく。
- ・収入計画では、姫路市からの委託料については、今年度の姫路市からの委託料が確定していないため、昨年と同様の金額に、経験年数 5 年に達する職員、9 年に達する職員が追加であるので、加算額をたしたもので目標を立てている。
- ・支出計画については、令和 3 年度は特に高額物品購入予定はない。

特別養護老人ホームサンライフ土山

令和3年度 事業計画書（案）

新型コロナウイルスの蔓延により、利用者様の生活が大きく制限を受けることになった。面会の規制がおこなわれ、外部の業者やサービスの利用も縮小された。その中で、ご家族への情報発信やコミュニケーション方法の見直しをおこない、会えていない事による不安の解消を図りたい。また、全体での行事が中止となり、季節感を感じる機会が減り、他のユニット、フロア間での交流も減少している。感染症対策をおこないながら、小さな規模でも利用者様への楽しみを提供し続けたい。

1. 新型コロナ等の感染症対策の実施

昨年度、衛生管理・感染症対策委員会で決まったことを確実に実施していく。受診後は、玄関で手指にアルコール消毒をおこなってからエレベーターに乗る。ドアノブは1日に1回アルコール消毒をおこない、エレベーター内の消毒はシーツ交換専門の職員が実施する。換気については、常時おこない、寒い時は暖房を使用しながら換気をする。窓を開ける場所は決めているが、利用者様からの要望や訴えによって、開ける場所を検討しすすめていきたい。新しく購入した非接触型体温計を使用し、利用者様の体温を定期的に把握する。また、職員についても、1日2回の体温測定を義務付ける。ガウン・キャップ・フェイスシールドは6階の備蓄倉庫に保管しているが、手袋・マスク等は本部にも多く在庫があるため、法人内で協力し不足がないようにしたい。また、引き続きマニュアルの整備や研修、委員会の実施、医務と連携しての訓練の実施を行い感染予防・発生時の対応の強化を図っていきたい。

2. レクリエーション提供体制の確立

昨年は外出が行えず、大きな行事も中止となっており、利用者様の余暇時間が減少となってしまった。制限がある中でおこなえるものとして、少人数でのレクリエーションをすすめたい。月ごとの行事ではなく、クラブ活動という形で担当の職員を決め、2ヶ月に1回以上の開催をおこなう。囲碁将棋、カラオケ、園芸などの内容で、ユニットから希望者や趣味の合う方を挙げ、参加をすすめたい。

3. 家族への情報発信

コロナウイルスの感染拡大を受けて、家族の面会についての規制が続いている。ZOOMアプリを使用して予約を受け付け、リモートでの面会を実施しているが、利用している方に偏りが見られている。高齢の家族様や、アプリの利用をしていない方へ、利用者様の様子を伝えていく方法として、手紙を書き、さらに生活の様子を写真に撮り同封し、

定期的に郵送していきたい。

また、昨年度に入所された方の家族様は施設職員の顔がわからないことが多いと思われる。サンライフ土山、ユニット職員の紹介を顔写真入りで作成し、配布していきたい。

4. 外国人職員の指導体制の見直し

EPA 候補生の業務内容にユニット間でバラつきが出てきている。同じ入職 2 年目の職員でも計画書類の原案の更新をおこなっている外国人職員とそうでない職員や、ユニット内での仕事をおこなっている職員とそうでない職員が出てきている。各ユニット間での指導方針の違いにより差が出ている現状があるため、EPA 候補生において、1 年目で実施してもらうこと、2 年目で実施してもらうこと等の仕事の割り振りの目安を作成し、その項目に沿って指導をおこなっていく。

5. ユニット目標

- ・ 2 階西「職員間の連携を図り、利用者様・職員共に過ごしやすい環境作りを行う」
- ・ 2 階東「報告・連絡・相談をきちんとする」
- ・ 3 階西「ヒヤリハットを活用し、事故防止につなげる」
- ・ 4 階西「家族様との交流を密に図る」
- ・ 4 階東「報告・連絡・相談を密に行い、個々の介護スキルを向上させ、事故件数を減らしていく」
- ・ 5 階西「ユニット内で情報の共有をおこない、行事やレクリエーションの充実を図る」
- ・ 5 階東「職員間のコミュニケーションをしっかりと図り、情報を共有する」

6. 収支について

コロナウイルスの蔓延により、今は動きたくない等の理由で施設入所の動きが鈍化している状況がある。入所待機者確保のために、居宅介護支援事業所やグループホームなどへ入所申込を持参し、営業活動を行う。要介護度等の状況に応じて、同グループの通所介護や小規模多機能型居宅介護支援事業所への利用をすすめる等の相談にも応じていきたい。また今年度、介護報酬改定に伴い、多職種との連携や CHASE・VISIT 情報の収集・活用が重要視されている。加算については、要件や計画、評価等の作業等を考え、算定していきたい。

令和3年度 特養研修計画(特養・ショート・デイ)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護・医療研修	電話対応について EPA 必須	車両操作	バイタルサインズについて	ポジショニング	リハビリ訓練の仕方	防災について
担当者	事務所	デイ	医務	厚生 PT	長井	防災委員会
介護講習	シーツ交換について	口腔体操	壽の記録	車椅子への移乗	移動介助(車いす、杖、歩行器)	食事時の姿勢と介助
担当者 (リーダー)	2 階西	2 階東	3 階西	ショート	4 階西	4 階東
ユニットリーダー 対象	介護報酬について	介護報酬について	食中毒について	尿路感染	監査 法令	防災食について
担当者	山岡・世良	山口	毛利	医務	山岡 世良	毛利
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護・医療研修	AED、心肺蘇生	認知症について	腰痛予防について	看取りについて	事故について	接遇について
担当者	医務(特養)	認知症委員会	衛生管理委員会	看取り委員会	リスク委員会	接遇委員会
介護講習	身じたく	排泄介助	マスク・手袋の脱着・手洗いについて	口腔ケア・整容	・寝返り(姿勢の変わる)・起き上がり	入浴介助・清拭
担当者 (リーダー)	5 階西	5 階東	2 階西、東	3 階西、東	4 階西、東	5 階西、東
ユニットリーダー 対象	機能訓練	認定調査	QC 活動	虐待防止	接遇	栄養
担当者	長井	世良	毛利(有本)	山岡	政次	毛利

令和 3 年度介護状況目標

項目		令和 2 年度 2 月末状況 (入所者 70 名) 要介護度 4.07	令和 3 年度 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		17 名 25%	15 名 21%
入浴統計	特浴	17 名 25%	15 名 21%
	リフト浴	51 名 75%	47 名 79%
	個浴	0 名 0%	0 名 0%
食事形態	普通食	31 名 46%	33 名 47%
	刻み食	10 名 15%	13 名 19%
	極刻み食	11 名 16%	12 名 17%
	ミキサー食	16 名 24%	12 名 17%
	経管栄養	0 名 0%	0 名 0%
褥瘡者		2 名	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施※		7 名 37%	10 名 53%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

令和3年度収支計画 *収入は介護報酬の収入*令和2年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

[illegible]

サンライフ土山ショートステイ

令和3年度 事業計画書（案）

本年度は、サンライフ土山特養と同様に、「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」をモットーに職員一人ひとりが業務中・公休時に責任ある行動が取れるように基本である、手洗い・消毒・うがい・マスクの着用の徹底及び不要不急の外出を控え感染防止に努めていく。

ショートステイとして、前年度は、ロングショートの定着に時間がかかり、稼働率の低下に伴ったので収益とも減少した。また、特養への移行もスムーズに行えなかったもので、本年度は積極的に各事業所への営業活動を行い、部屋に空きがないよう、特養相談員・看護師と連携を図りお客様確保を目指す。

また、介護経験が浅い職員への技術不足がみられるので中堅職員含め介護講習を実施し、技術の底上げ・見つめ直すことで向上を図っていく。

ショートステイの取り組みとして入所時・退所時にボディチェック表をもとに身体の状態把握に努め、早期発見や迅速に家族様に報告できる環境に取り組んでいく。

1. 人材育成

- I. 技術・技術不足の職員に対し、介護技術の内部研修を実施し、技術の底上げ・向上を図る。また、内部研修の講師を、各ユニットやユニットリーダーに担当させることで、教える側の技術や知識の向上も目指す。責任を持たせていく。
- II. 中堅職員に対し仕事のやりがい・責任感を持たせるため、施設委員やユニット内の中心的な仕事を担っていくよう、割り振りを行う。リーダー、リーダー候補職員には、ショートステイの見学対応、予約、契約業務が1人で行えるように指導を行う。
- III. 業務において基礎である報告・連絡・相談がおろそかになってきている。出勤後はユニットのノートに必ず目を通すこと、寿の掲示板を確認することを徹底する。また、共有すべき情報はユニットノートに記入し、職員間で共有できるように指導を行う。
- IV. 職員の健康増進の為のリフレッシュ休暇を、連続して5日程度のまとまった休みが取れるよう勤務表を組む。職員の介護疲れのイライラが利用者様に向かわないよう適切な有給の使用を促していく。
- V. 資格取得に関しては、勉強会の問題への取り組みを上司が定期的に確認するようにしていく。

2. 忘れ物について

アプリの効果もあり、昨年度は衣類や貴重品の忘れ物のケースは減少したが、小分けして準備してくださっている薬袋を忘れてしまっているケースが目立った。対策として、見落とさないように保管場所の徹底と退所チェック時の手順を決め改善に繋げていく。また、職員によって写真を撮影する際に色別に違いがあり、首元や衣類の裏のタグに記入されているメーカーを備考欄に記入することで業務の効率化に繋げていく。昨年同様に紛失されやすい方や収集癖のある方に対しては、家族様に同意を頂き、居室に荷物を置かず、職員が管理する。

3. 事故の防止

昨年度は、利用人数もあるが、事故件数は減少したが、入所時にあった傷口が退所時には悪化しているケースもあり、報告・連絡・相談ができていなかったことがあった。ボディチェック表を導入することにより何時できたものか長期間で使用してくださっている方には経過観察ができる機会に繋がり、職員間がいつでも把握できるよう対策をとる。ボディチェック表から早期発見し、家族様へ迅速な報告に繋がるよう強化していく。ヒヤリハットノートに関して記入されることが少なく、本当にヒヤッとしたことがないのか、ただ書いていないだけなのか分からない現状である。事故を未然に防ぐためにも、ヒヤリハットノートの有効活用を指導していく。また、事故が起きた際、事故報告書を出して終わりにするのではなく、その後しっかりと部署内で話し合い、必要に応じて他部署からの助言を頂き再発防止対策を徹底していく。事故予防に努め、事故件数を減らし、事故発生時にかかる労力の削減を目指す。

4. 感染症予防

昨年度は新型コロナウイルス・様々な感染症に職員・利用者様が出なかったものの体調不良や発熱により欠勤になったケースがあった。発症に伴うのは利用者様の受け入れ制限や面会の制限で、利用者様・家族様に迷惑をかけてしまうため、今年度も感染症を出さないために、感染症マニュアルの再確認と、周知徹底を行い、緊急時迅速に行動・対処できるようしておく。職員においても業務中は、2回の体温測定を実施し、体調確認を行うとともに、少しでも普段と違うようであれば早退や欠勤してもらい拡大しないよう配慮する。ショートステイでは送迎確認の電話の際、体温に異常がないか、下痢や嘔吐の症状がないかなどの確認と場合によっては家族様の体調確認を行い、施設内での流行を未然に防ぐ努力を行う。

5. 収入・利用者様の確保

今年度も月平均稼働率98.5%を目標とし、利用者様の獲得に努めていく。営業時に御立・土山ショートステイのホームページを宣伝し、ネット上で空室や入所基準、利用料金が確認できることを伝えていく。入院部屋やキャンセルの部屋が出れば都度情報を更

短期間利用の方の予約は空き等もあるので満床になるよう各事業所への営業や現在利用してくださっているお客様のニーズによっては日程のご相談も随時実施していく

令和3年度収支計画 *収入は介護報酬の収入*令和2年度2月3月は予想である。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入	3,905	3,572	4,426	3,791	4,301	3,262	23,257
令和 3 年度収入計画	3,922	4,063	3,922	4,063	4,063	3,922	23,955
令和 2 年度支出	2,594	2,716	4,927	2,819	2,785	2,695	18,536
令和 3 年度支出計画	2,660	2,660	4,300	2,660	2,660	2,660	17,600
令和 2 年度収支差額	1,311	856	-501	972	1,516	567	4,721
令和 3 年度収支差額計画	1,262	1,403	-378	1,403	1,403	1,262	6,355
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入	2,560	2,840	3,218	3,991	3,575	3,572	43,013
令和 3 年度収入計画	4,063	3,922	4,063	4,063	3,776	4,063	47,905
令和 2 年度支出	2,672	2,359	5,363	2,725	2,600	2,600	36,855
令和 3 年度支出計画	2,660	2,660	4,300	2,660	2,660	2,660	35,200
令和 2 年度収支差額	-112	481	-2,145	1,266	975	972	6,158
令和 3 年度収支差額計画	1,403	1,262	-237	1,403	1,116	1,403	12,705
令和 2 年度と令和 3 年度計画の収入比率				111%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の支出比率				96%			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の差額比率				206%			

収入においては、ロングショートの確保に時間がかかり稼働率が98%の目標に達成出来ていなかった。また、特養への移動もスムーズに行えなかった。今年度は、稼働率98%として収入の増加、介護報酬改定での加算取得を行い、収入増を見込んでいる。支出面においては、昨年度、新規施設への常勤異動があり、今年度、人件費の減が見込まれる。全体としては、稼働率を上げることにより、収支差額の増加を図る。

令和 3 年度の目標利用人数

(単位：人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度実績	272	273	319	281	310	237	1,692
令和 3 年度目標	296	305	296	305	305	296	1,803

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度実績	184	214	247	294	275	275	3,181
令和 3 年度目標	305	296	305	305	286	305	3,605

*令和 2 年度実績の 2 月・3 月分は予想の数値です。

特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

令和３年度 事業計画書（案）

利用者の重度化が進み、決められた人員配置の中、質の高いケアの提供することが求められる。その為、本年度も、他職種と連携、協働し、安心・安全な医療・看護提供、看護体制の充実に努めていきたい。

1. 他職種と連携、協働し、安全・安心な医療・看護提供に努める

- I. 昨年度の入院延日 837 日にのぼり、稼働率 94.2%であった。稼働率 98%の目標に達していない。昨年度は、嘱託医との連携が上手く図れず、入居者の早期治療に繋がられなかった事もあった。1 月から嘱託医が変わり、嘱託医と密にコミュニケーションをとっていき、今年度も重度化する入居者と家族様とともに、入院回避にむけて取り組んでいきたい。
- II. 他職種と情報共有・チームケアを重視し、入居者の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、介護度の重度化しないよう、病気が悪化しないよう、また、生活機能が維持できるよう支援していく。
- III. 昨年度のターミナルでの看取りは 8 名あった。本年度も、入居者の尊厳を守り、看取り介護の充実と体制の構築を目指す。嘱託医には、看取りの時期がきたら、家族様の思いがぶれないように、十分に説明してもらう。また、看取り同意書が長期になっている入居者に対し、ご本人、家族様に、嘱託医より意向の再確認してもらうよう働きかける。

2. 安全管理

- I. 事故、ヒアリハットの軽減に努める。誤服薬、転落・転倒・外傷予防、褥瘡廃止ケア、リスクマネジメント等 事故報告書を各フロアに綴じて、全職員が事故の軽減や事故後の対応が、周知できるようにしているが、定着していない。転倒、褥瘡リスクの高い入居者を把握し、危機意識を持つことができるように指導し、予防に努める。外傷予防のために介護技術の向上に努める。

3. 健康管理

- I. 個々の利用者の健康を守ることに加え、施設全体の健康的で安全な環境を確保し、健康危機の対策を行う。
- II. 新型コロナウイルス感染症や感染性胃腸炎、インフルエンザの発症の予防や蔓延の防止、発症者の健康管理を行う。昨年、インフルエンザ等の発症はなかった。
- III. 職員の健康増進に配慮する。コロナ禍における不安や緊張等さまざまな悩みに相

談できるようにする。

4. 新型コロナウイルス感染症対策の強化

- I. 感染委員会を主として、マニュアルの整備・発症時に備えた訓練（シミュレーション）・研修の実施。
- II. 備品の購入・整備。
- III. 新型コロナウイルスのワクチン接種が安全に行え、接種後の対応が迅速にできるように協力病院と密に連携を取る。
- IV. 利用者や職員の熱発時には協力病院などと連携し、適宜 PCR 検査など施行してもらい、感染拡大防止に努める。

5. 業務の簡素化・効率化をはかる

臨時薬も定期薬につけてもらえるよう、薬局と調整していき、業務の効率化を図る。

6. 人材育成・看護体制の確保

オンラインでの外部研修に積極的に参加、施設内研修を行い知識やスキルの向上を図っていく。ユニット毎に担当看護師等を決め、責任をもってもらって入居者の異常の早期発見やケアプランの担当者会議に担当看護師も参加したりし、日々の細やかなケアに繋げるようにする。

特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

令和3年度 事業計画書(案)

異物混入をなくすことを前年度も目標に挙げていたが達成できなかったため、今年度も継続して「異物混入をなくす」ことを目標にする。

また、現場の常勤職員が2名いることから献立の充実を図りたい。

1. 異物混入防止について

昨年はヘアキャップを着用し、厨房着のコロコロを徹底したこともあり、毛髪の混入は発生しなかった。しかし、ラップ片の混入が2件、ビニール片の混入が1件、プラスチック片の混入1件が発生してしまった。マニュアル作成時に想定しきれていないこともあり、危険と感じたら都度マニュアルに追加し、厨房内で情報を共有していく。

また、ヘアキャップの着用・コロコロを徹底し、継続して毛髪の混入を防ぎたい。

- ・袋の口は1度に切りきる(温泉卵のだし以外)。切った後は、本体の数と切れ端の数が同数か確認し捨てる。万が一、切り方が悪く破片が出た場合はすぐに捨て、破片が見つからない場合、見つかるまで探す。
- ・錦糸卵の袋を切る際は、中のプラスチックを切らないよう袋の上部を引っ張りながら切る。万が一プラスチックを切ってしまった場合、破片が見つかるまで探す。プラスチックが細かく割れた場合や破片を探しきれない場合は、使用しない。
- ・ラップ使用時は、刃にラップ片が引っかかっているか確認する。次にラップの切り口がキレイであることを確認後使用する。切り口がギザギザの場合、一度キレイに切ってから使用する。また、お皿にラップをするときは料理の上でラップを伸ばさず、横でラップを伸ばし料理にラップをかける。

以上3点をマニュアルに追加する。

現在使用しているブルーラップは素材の特性、刃の作り上、切りにくく小さな破片が出てしまう。盛り付け台に小さな破片が落ちていることも多々あり、混入のリスクは高い。マニュアルに沿って使用し、それでも混入してしまうことがあれば、ブルーラップの使用中止も検討する。

2. 献立の充実を図る

現在調理現場の常勤職員が2名在籍しているため、以前に比べ人員的に充足している日が出てきている。そのため、今までは人員的に提供が難しかった天ぷらやコロケ等の手の込んだ料理や手作りのおやつを出していきたい。

3. デイサービスへの配膳ミスをなくす

仕事始めに、人数・食種（普通食〇名、刻み食〇名等）・特記事項（禁止食品等）を声に出して確認し、職員同士で情報を共有している。また、刻み食や代替品は料理ごとにまとめるのではなく、色違いのトレイに刻み食だけ・代替品だけをまとめて置くことでミスを減らすことができています。しかし、0にはなっていないため、今年度も継続して配膳ミス0を目指す。

4. 多職種連携について

2021 年度介護報酬改定に伴い、多職種連携における管理栄養士の関与の強化が求められている。看取り期における栄養ケアの充実や褥瘡の改善等、多職種と連携を図りながら改善に努めたい。

デイサービスサンライフ土山

令和3年度 事業計画書（案）

新型コロナウイルス発生以来、感染防止の観点から、デイサービスの利用を控える方が多く見られ、他者交流や外出の機会が減少することで、身体機能の低下だけでなく、認知症の進行やフレイルが危惧されている。

今年度は、昨年度に引き続き、感染予防対策を徹底し、コロナ禍でもデイサービスを利用することで、人と触れ合える、社会と繋がれる場を持ち、他者との交流や外出する楽しみを持っていただき、閉じこもり防止や社会参加に繋がるように支援していきたい。

1. 感染症対策の強化

利用者様が安心・快適に過ごしていただけるよう職員一同感染拡大予防に取り組む。対策としては、送迎時の検温、送迎車内・デイサービス室内でのマスク着用の啓発、常時換気、来所時の手洗い、うがい、検温、体調チェック、リハビリ後・食事前・おやつ前の手指消毒、昼食後の検温の実施、清掃の徹底・消毒、パーテーションの設置等。職員においては、出勤時・退勤時の手洗い、うがい、更衣の実施、マスクの着用、昼食後の検温の実施、勤務外であっても「3密」を避ける等、利用者様及び職員の健康管理を図り、クラスターが発生しないように努める。

2. 自立支援に向けての取り組み

利用者様・家族様のニーズを把握し、いきいきとほりのある在宅生活が継続出来るように支援していく。個々の能力に応じた機能訓練やレクリエーションを取り入れ、残存能力の維持・向上に努める。楽しみや生きがいを感じられるイベントや季節を感じられる外出レクリエーションを企画し、楽しみや意欲の引き出しを行う。また、引き続き、セラバンド体操や体操レクリエーションを毎日実施し、上下肢筋力の低下予防を図る。音楽レクリエーションでは、青春時代の懐かしい歌を取り入れ、記憶を引き出すことで、脳を活性化させることにより、認知機能の低下防止を図る。デイサービスでの活動を通し、他者との交流や繋がりに楽しみを感じていただき、身体機能の向上だけではなく、生活機能全般を向上させ、心身機能の維持向上・活性化が図れるようサービス提供に努める。

3. 介護技術・知識の向上

利用者様ひとりひとりの身体的・精神的状況、状態に即したよりよいサービス提供が行えるよう、個々のニーズをしっかりと把握し、職員間の情報共有の徹底を行い、支援内容の統一を図る。毎月の特養との研修会・勉強会に参加し、介護技術および知識の向上を図る。また、事故発生時の対応方法の周知徹底、報告、原因分析を行い、再発防止に努める。

4. 連携の強化

利用者様の状態をこまめに地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に連絡・相談をし、連携の強化を図る。家族様との連携においては、朝夕の送迎時や連絡帳にて交流を図り、心配事やデイサービス利用に際し、疑問に思われている事等の改善に努め、家族様の介護負担の軽減を図る。また利用者様及び家族様の各種相談に応じ、内容に即し

て、担当ケアマネジャーに連絡・相談をし、情報共有を行い、連携を密にしていきたい。

5. 収入と利用者数の確保について

利用者数の確保については、月初めに利用状況報告・実績報告を兼ね、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所へ出向き、パンフレットやデイ新聞にて、月間スケジュールや空き状況を伝え、新規獲得に繋げていく。既存の利用者様においては、お休みされる場合などは、別の日に振替利用していただくよう提案していく。収入面では、2021 年介護報酬改定により、基本報酬はアップとなったが、現在取得している加算の減算・見直し・廃止等に伴ない、現状のままでは減収のおそれあり。算定要件が難しく、新たな人員配置が必要な場合等を除き、既存の職員で取得可能な加算については、取得していくよう努める。デイから特養・ショートステイ・小規模多機能の利用へと繋がるよう、居宅を踏まえた連携の強化に努めていく。

令和3年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度実績	26.0	24.9	30.5	31.4	29.5	31.4	29.0/月平均
月合計(人)	676	648	792	849	767	816	4,548
令和3年度目標	30.5	30.6	31.0	32.0	31.5	31.6	31.2/月平均
月合計(人)	793	796	806	864	819	822	4,900

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度実績	30.1	29.5	30.5	29.8	29.5	30.2	29.4/月平均
月合計(人)	812	738	824	714	708	815	9,159
令和3年度目標	31.0	30.8	30.7	30.5	30.4	31.5	31.0/月平均
月合計(人)	806	801	829	763	730	851	9,680

* 令和2年度実績2月3月は予想で入れています。

令和3年度収支計画 *収入は介護報酬の収入*令和2年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度収入	5,434	5,066	6,089	6,728	6,109	6,231	35,657
令和3年度収入計画	6,005	6,026	6,127	6,608	6,249	6,263	37,278
令和2年度支出	4,133	4,755	5,488	4,804	4,563	4,542	28,285
令和3年度支出計画	4,133	4,524	4,420	4,572	4,564	4,356	26,569
令和2年度収支差額	1,301	311	601	1,924	1,546	1,689	7,372
令和3年度収支差額計画	1,872	1,502	1,707	2,036	1,685	1,907	10,709
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度収入	6,414	5,740	6,204	5,596	5,482	6,454	71,547
令和3年度収入計画	6,149	6,091	6,310	5,809	5,557	6,481	73,675
令和2年度支出	4,403	4,053	4,663	4,509	5,028	4,479	55,420
令和3年度支出計画	4,217	4,054	4,394	4,510	4,332	4,367	52,443
令和2年度収支差額	2,011	1,687	1,541	1,087	454	1,975	16,127
令和3年度収支差額計画	1,932	2,037	1,916	1,299	1,225	2,114	21,232
令和2年度と令和3年度計画の収入比率				103%			
令和2年度と令和3年度計画の支出比率				95%			
令和2年度と令和3年度計画の差額比率				132%			

収入・支出・差額についての管理者意見

収入は、昨年度コロナウィルスの影響による利用控えがあり、月平均31.2名の目標を達成出来なかったが、今年度は利用人数増を図ると共に介護報酬改定による加算取得に努める。支出面は、常勤2名→1名となり、人件費等支出減を見込んでいる。

サンライフ土山居宅介護支援事業所

令和 3 年度 事業計画書（案）

前年度からの新型コロナ感染拡大の影響を受け、介護サービス利用を制限されたままの方や、不安なまま利用を継続されている方が、安心して支援を受ける事が出来る様に、今年度も引き続き、一人ひとり丁寧にモニタリングを行ない、在宅生活、身体機能に影響が出ない様、相談支援業務を行う。又、職員の感染予防策として、利用者宅に訪問する際は、マスクの着用を必須とし、個々にアルコールスプレーを携帯し、常に消毒が出来る状態で訪問を行い、自他ともに予防に努める。今年度の介護保険制度改正については、各サービスの基本報酬の変更・加算要件など、職員全員が内容を把握する為に、他の居宅介護支援事業所と連携を取り、勉強会の開催と参加を行う事で、介護保険制度の情報共有や困難事例の対応など、ケアマネ業務に必要な知識向上に力を入れる。事業所内の業務については、担当人数や業務負担の偏りが無い様に、相談しながら振り分けを行う事により、書類整備など延滞しない様にする。

1. 安定した収入の確保

- ・サービス事業所・施設・病院など、感染対策で出入り制限されている場所が多い為、研修会や担当者会議の場など、営業方法を工夫しながら、今後も営業活動に取り組み、新規利用者獲得に繋げる。
- ・新規依頼については、要支援者の依頼が多い為、事業所として、予防委託件数の受け入れ上限を決め、適宜対応しながら要介護者の新規獲得に力を入れる。
- ・委託認定調査については、毎月依頼が安定している。今後も、ケアマネ業務に支障が出ない範囲で、依頼を受け、収入増に繋げていく。

2. サービスの質の向上

- ・医療・福祉・社会資源等、課題解決に必要と思われる情報の収集に努める。
- ・各種研修会に参加し外部の居宅介護支援事業所のケアマネと情報交換や交流の機会を作り、知識向上に努める
- ・今年度の介護保険制度改正について、各サービスの加算要件など、しっかり把握する。

3. 事業所内の連携強化

- ・事業所内の業務が円滑に行える様に、いつでも相談ができる環境を作る。
- ・事業所全体のプラン件数、個々の担当人数を全員が把握し、担当人数の偏りを無くす。

4. 介護予防支援

- ・各地域包括支援センターに対し、営業活動を継続して行い、要介護者の新規依頼に繋がるよう努める。
- ・委託プランについて、必要に応じて地域包括に、報告・相談を行ない利用者が自立できるプランを作成する。

令和3年度収支計画 *収入は介護報酬の収入*令和2年度2月3月は予想である。

(単位:千円)

[illegible]

リハビリデイサービス サンライフ御立西

令和3年度 事業計画書(案)

令和3年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営強化を目指そう!!」に基づき、昨年度に引き続き出来る限りの新型コロナウイルス感染予防対策を実施し、利用者様が少しでも安心して利用していただける施設を目指す。また、コロナにより様々な制限がある中、今だからこそ出来ることを考え、個別レクリエーション等のマンネリ化を防ぎ、新しい企画への取り組みに励みたい。さらに今年度は介護報酬の改定が行われるため、改定内容に即した必要要件を実施していきたい。

1. 利用者様のニーズの把握と、各サービス事業者等との連携

利用者様のニーズの把握の為、家族様との情報交換を密に行い、些細な事でも気軽に相談できる関係を構築できるよう努めたい。また、他のサービス事業者等とも、利用者様のサービス実施状況や家庭環境、状況変化等、密に情報交換を行うことにより、連携を強化し、利用者様・家族様の意向に配慮したサービス提供ができるよう努めたい。

2. 職員の専門性強化によるサービスの質の向上

今年度より、機能訓練指導員として理学療法士を採用し、新たな職種が加わることとなった。理学療法士による個別リハビリの内容の見直しと、セラピスト同士による他のサービス事業所との連携の強化により、サービスの質の向上を目指す。また、有資格者(介護福祉士・看護師・理学療法士・歯科衛生士)を中心に職員間でのサポート体制を整え、各職種が意見交換し、共に学ぶことにより職員間での連携を強化し、各職員の専門性を高めていきたい。また、職員に本部での勉強会への参加を積極的に勧め、介護福祉士等資格取得をサポートしていきたい。

3. 年次有給休暇の取得

昨年度、年間10日以上の有給休暇が付与されている職員については、年間5日以上の有給は取得できたが、10日以下の付与となった職員については、5日以下の取得にとどまる職員もあった。また、人員数の都合により単発での取得となる事が大半を占めた。その為今年度は、送迎人員を含めた人員数の確保により、全職員の連続取得と、職員の希望時季取得を実現し、ワークライフバランスの充実を図りたい。

4. 収入と利用者数の確保

利用者の確保については、定員 25 名に対して、空きのない曜日も多く、現状確保できているため、入院者や利用中止者が出た際には迅速に対応し、現状維持できるよう努めたい。収入の確保については、理学療法士採用により、個別機能訓練加算（Ⅰ）口を算定が可能となるが、介護報酬の見直しにより、算定できない加算等もある為、改定後算定できそうな加算については、要件を満たせるよう検討し、収入の確保に努めたい。

令和3年度2月3月は予想である。 *収入は介護報酬の収入を記載 (単位:千円)

[illegible]

特別養護老人ホームサンライフ西庄

令和3年度 事業計画書（案）

令和2年度経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう!!」をもとに、コロナ感染症対策のガイドラインの策定及び効率的なワクチン接種予防を行うと共に新規加算算定に挑戦する。また、外国人労働者の教育システムや入居者様へのレクリエーション強化を目指す。

1. コロナ感染症対策の強化

I. コロナ対策のガイドラインの策定

コロナ感染者及び疑いが発生した場合のガイドラインを策定すると共に、全職員への周知の為の研修およびシミュレーション訓練を実施していくことで、コロナの発生が起きた場合にも職員がすぐに対応できるようにする。

II. 効率的なワクチン接種

ワクチン接種が始まった場合に、職員及び利用者が業務に支障をきたさずにワクチン接種が行えるよう、スケジュールを作成し介護職・看護職・施設長・相談員・事務員などが協力して効率的に摂取体制が築けるようにし、家族の面会等が早くに再開できるように努める。

2. レクリエーションの強化

コロナ禍は体調不良職員の勤務自粛などにより、利用者様へのレクリエーションが少なく活動量や外出などの気分転換が図れない状況であった為、外出や月行事などを含めた日々のレクリエーションが実施出来るようにし、利用者様の活動量や参加率を増やし楽しみが得られるように支援していきたい。

3. 外国人労働者の教育

I. 介護技術の習得

リーダー及びチューターが利用者毎及び介助毎に「やって見せ」次に「やらせてみて」最後に両者からのチェックで合格を貰えれば、初めて、その入居者様の介助項目が一人で出来るよう指導し、安全で安心な介護提供が出来るようにする。

II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

介護技術以外に係る業務については、1ヶ月毎に習得して貰う項目をチェックリストとしてリーダー外国人労働者に渡し、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかを擦り合わせ成長を図る。また、その際に困っている事などを聞き対応していき外国人労働者の不安が解消できるようにしたい。また、リーダーやチューター以外が気になることがあれば、指導確認表を作成し指導しなければならない項目を指導するようにもする。

4. 職員のリフレッシュ及び腰痛予防ベルトの支給

1年間以上の勤務がある者は全員が4月から翌年3月までに有給または生活支援休暇取得で7日以上の取得が出来るようにする。

また、それ以外の者は全員が、有給発生時期より1年間で有給取得5日以上とれるようにする。また腰痛予防の為、半年以上働かれている希望職員には腰痛予防ベルトをレンタル支給し、職員が健全に働けるように支援していきたい。

5. 新加算の取得

I. 加算の選択

今年度の法改正により大きく加算状況などが変更となる為、人員状況を踏まえると共に、外部の医師・歯科衛生士・PT等との連携も行いながら加算要件をしっかりと確認する。そして、人員要件からグループホームとも協議し、どの加算を算定するのか決定し、算定できる加算は取得していきたい。

また、栄養マネジメントやリスクマネジメントなどの減算要件もある為、継続的な栄養マネジメントや半年以内にリスクマネジメントの外部研修に参加するようにし、減算に当たらないようにする。

II. LIFEの導入

加算要件については、CHACE（LIFE）に紐づいた加算が多くなってきている為、他職種協働で、入居者毎の加算要件の揃う計画書を策定出来るように、日程や担当の管理をどのようにしていくかを検討しシステム化する。しかし、現行の加算との計画書の重複等や厚生労働省への情報提供ツールや要件が不透明な部分もある為、調査をしっかり行い、移行時期は今年度中にLIFE関係への加算へ移行し算定出来るようにしていきたい。

6. フロア間の業務のバラツキの低減

ユニット間をまたぐ勤務について、どちらの業務を優先すべきかまた、どの時間帯にどちらのフロアに居て欲しいか等の協議が出ている為、ユニット間をまたぐ勤務については各フロアの勤務職員の動きと負荷などを勘案しユニット間をまたぐ勤務者の業務を統一していきたい。

また、そうすることで各フロアの勤務者についても統一された業務を確立させ、個人間での業務のバラツキの低減に努めて行きたい。

7. 地域貢献

昨年はリストランテ・ヴォーノがコロナの影響により中止することが多かったが、今年度はコロナや社会情勢を見て、感染対策を徹底し再開をしていきたい。

また、高校生ボランティアの参加が促せるよう各高校等とも調整をしていきたい。また、運営推進会議を通じ地域ニーズの把握を行うと共に、自然災害時における地域住民の方との参加や連携が行えるように協議をしていきたい。

8. 収入の確保と支出

現在の算定加算を確実に継続すると共にショートステイ・病院との連携及び、施設内での医療力を高め入院を防ぎ入所率98%以上を目指していくと共に、新加算の算定に向け挑戦することにより収入を確保していきたい。

支出面として昨年度より増加する分については、日中のケアを充実させるために、日勤勤務者を作っていく為、外国人労働者の受入れを実施するので、年間、特定技能実習生 840 万円、技能実習生 280 万円、初めに二人で一部屋に住んで頂き生活準備金として 60 万円及び職員の昇給により年間 165 万円の人件費等発生するが紹介料が 200 万円減少できる。

また、その他コロナ後の活動費としてレクリエーションの強化により年間で約 12 万円及び設備投資費として施設で使用する車椅子やエアマットに 30 万円、腰痛ベルトに 25 万円、駐車場代に年間 12 万円の増加が見込まれる。

年間収入目標

※令和2年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載

(単位:千円)

[illegible]

サンライフ西庄ショートステイ

令和3年度 事業計画書（案）

今年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」をもとに、コロナ感染症対策のガイドラインの策定及び効率的なワクチン接種予防を行うと共に新規加算算定に挑戦する。また、外国人労働者の教育システムや入居者様へのレクリエーション強化を目指す。

1. コロナ感染症対策の強化

コロナ対策のガイドラインの策定

コロナ感染者及び疑いが発生した場合のガイドラインを策定すると共に、全職員への周知の為の研修およびシミュレーション訓練を実施していくことで、コロナの発生が起きた場合にも職員がすぐに対応できるようにする。

2. レクリエーションの強化と充実

コロナ禍は外出の自粛等により気分転換が図れない状況が続いていた為、外出の企画や毎月の行事を企画することで季節を感じていただき気分転換を図りたい。日々のレクリエーションの内容も検討し工夫を行い、利用者様の活動量や参加率を増やすことで楽しみが得られるように支援していきたい。また、おやつ前に実施している体操を今後も毎日継続していきたい。

3. 外国人労働者の教育

I. 介護技術の習得

リーダー及びチューターが利用者毎及び介助毎に「やって見せ」次に「やらせてみて」最後に両者からのチェックで合格を貰えれば、初めて、その入居者様の介助項目が一人で出来るよう指導し、安全で安心な介護提供が出来るようにする。

II. 生活支援の習得と外国人労働者の不安解消

介護技術以外に係る業務については、1ヶ月ごとに習得して貰う項目をチェックリストとしてリーダーと外国人労働者に渡し、1～2週間毎にそれぞれが評価し何が出来ていて何が出来ていないかを擦り合わせ成長を図る。また、その際に困っている事などを聞き対応していき外国人労働者の不安が解消できるようにしたい。また、リーダーやチューター以外が気になることがあれば、指導確認表を作成し指導しなければならない項目を指導するようにもする。

4. 職員のリフレッシュ及び腰痛予防ベルトの支給

1年間以上の勤務がある者は全員が4月から翌年3月までに有給または生活支援休暇取得で7日以上取得出来るようにする。また、それ以外の者は全員が、有給発生時期より1年間で有給取得5日以上とれるようにする。また腰痛予防の為、半年以上働かれている希望職員には腰痛予防ベルトをレンタル支給し、職員が健全に働けるように支援していきたい。

5. フロア間の業務のバラツキの低減

ユニット間をまたぐ勤務について、どちらの業務を優先すべきかまた、どの時間帯にどちらのフロアに居て欲しいか等の協議が出ている為、ユニット間をまたぐ勤務については各フロアの勤務職員の動きと負荷などを勘案し、フロア会議にて内容を決めてユニット間をまたぐ勤務者の業務を統一していきたい。

また、そうすることで各フロアの勤務者についても統一された業務を確立させ、個人間での業務のバラツキの低減に努めて行きたい。

6. 収入の確保と支出

現在算定している加算を継続して取得できるようにしていきたい。

体調不良者は早期受診を図ると共に施設内での医療力を高めることで入院を防ぎ入所率98%以上を目指すことで収入を確保したい。

ショートステイ利用者は特養入所待ちの方の為、急な入院や特養への入所の際は各居宅介護支援事業所へ空床の連絡を行いたい。また、定期的に居宅介護支援事業所や病院の地域連携室へ連絡を行い、次のロングショート待機者の確保を行うことで空床の部屋を減らし収入の確保に努めたい。

支出面として昨年度より増加する分については、日中のケアを充実させるために、日勤勤務者を作っていく為、外国人労働者の受入れを実施するので、年間、特定技能実習生280万円、技能実習生280万円、初めに二人で一部屋に住んで頂き生活準備金として15万円及び職員の昇給により年間30万円の人件費等発生するが紹介料が30万円減少できる。

また、その他コロナ後の活動費としてレクリエーションの強化・充実により年間で約6万円及び設備投資費として施設で使用する車椅子や歩行器に10万円、腰痛ベルトに5万円、駐車場代に年間6万円の増加が見込まれる。

※令和2年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載（単位：千円）

[illegible]

グループホームサンライフ西庄

令和3年度 事業計画書（案）

令和3年度ささゆり会経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」をもとに新しい生活様式を取り入れながら、入居者様が安心して生活して頂ける様に感染症対策をしっかりとする。グループホームでは「Happy Smile Sun Life（楽しく笑顔で穏やかな暮らし）」をスローガンとし、「その人らしさ」を大切にしながら今持っている力を活かせる「暮らし」を目指していく。

1. 「その人らしさ」を知り意欲を引き出す

日々のケース記録やフェイスシートなどから情報を得て、入居者様・家族様の想いを職員全員が共有する。また、本人様に関わる全ての方と連携し「その人らしさ」を知り、本人様に寄り添いながら意欲を引き出す。

I 健康的な生活を送る

毎日の日課であるラジオ体操・足の運動・口腔体操・口腔衛生に加え、個々の能に合った「家事援助」の役割を日課に取り入れ、認知症により失われた生きがいや自信を取り戻せるよう支援する。

II レクリエーションを通して認知症改善やQOLを高める

グループでのゲームや歌、体操をするなどの集団レクリエーション、手芸や編み物などの個別レクリエーション、好みの音楽を流したりお部屋にお花を飾ったりなど、楽しみや心地よさを感じて頂く基礎生活レクリエーションを通して、認知症の予防や症状の進行を遅らせたりQOLを高める。職員へのレクリエーションの必要性の意識付けに研修や関連本を活用する。

2. 感染症対策の強化

感染症基本対策である「手洗い・うがい・消毒」や「一ケア一手洗い」を守り、感染症マニュアルを全職員が周知徹底する。日々の入居者様の体調を把握するため検温・血圧測定を行い、特変時の早期発見に繋げ医療との連携を図る。コロナ発生時の業務継続ガイドラインの策定や研修、訓練(シュミレーション)の現地に向けた取り組みを行う。

3. 外国人実習生の受け入れ

外国人実習生本人やその国のことを知り情報を職員全員で共有する。慣れない業務や生活での不安を軽減するために、担当者を決めて相談しやすい環境を作る。

入居者様の対応が一人でできるよう月々のチェックリストを見ながら評価し、介護技術や認知症ケアがスムーズに行えるように指導していく。

4. サービスの質の向上と人財育

I 施設内外の研修の参加及び資格取得

西庄職員全体で行う研修に加え、グループホーム内でも研修テーマと担当を決め介護の質の向上や自己啓発に繋げる。施設内外の研修やオンライン研修で得た知識を職員で共有する。認知症ケアの専門性の向上や加算の取得に繋がる認知症介護リーダー研修を受講できる職員を育てていく。

II QC サークル活動の展開

グループホームでの課題を改善し、質の良いサービスが出来るように引き続き QC サークル活動を実施する。入居者様家族様の喜び、職員の成長に繋がる改善活動を行っていく。

5. 地域交流

コロナの流行が落ち着けば、外出や家族様との交流の機会を増やしていきたい。今後は他事業所の認知症カフェなどに参加して交流を増やしていく。

6. 職員の健康増進を図る

今年度も職員の心身ともに健康増進を図るため、有給取得 5 日取得後の生活支援休暇が取れるように声掛けを行う。休暇を取りやすい環境づくりになるように意識付けをしていく。

7. 収入の確保と支出

収入に関しては、満床状態を維持し年間平均稼働率 96%以上を目標として安定した収入を確保する。そして、科学的介護情報システム LIFE による新加算取得に向けて基盤を作っていく。

また、入居者様の体調管理などの把握に努め、早期受診や往診により医療と連携して入院の減少に繋げる。退所後の空床期間が最短となるように、ショートステイや居宅との連携を密にして待機者の確保に努める。人件費に関しては外国人実習生への投資が大きいと思われる。また、紹介料がかかるが非常勤職員の比率を増やし長期就労と良い人材確保を行うため、面接をしっかりと行っていく。

※令和2年度2月3月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載

支出は外国人技能実習生による人件費による支出と非常勤職員の採用による紹介料の発生が予想される。人材育成と長期就労できる環境作りを行い人件費のコスト削減に繋げる。

特別養護老人ホームサンライフ西庄 医務

令和3年度 事業計画書（案）

利用者様・利用者様家族が、安心して日々の生活を健やかに過ごせるよう利用者様の日々の観察、体調管理を行い、身体的異常の早期発見、対応を実施していく。まずは新型コロナウイルスで多くの高齢者施設で集団感染が起こっており、当施設での対応や発生に備えた準備を十分に行い利用者様の健康を脅かすことが無いよう全職員が正しい知識や行動を行っていく必要がある。CHASE（LIFE）の導入に向け、施設長、相談員、ケアマネ、介護職、栄養士、医師、看護師が専門的な視点で利用者様の生活を支援できるよう活発な意見交換ができるようチーム連携を大切にしていく。また、職員にとって健康に働き続けられる職場づくりを意識し、健康管理を行っていく。

1. 感染症対策に関する研修の実施、訓練、ガイドラインの作成

新型コロナウイルスの発生時に備えて施設内における対応を全職員が熟知しておく必要がある。そのためにも施設内における新型コロナウイルス感染症に関するガイドラインを早急に作成する。平常時から感染症に対する正しい知識や予防方法について、また実際の対応方法についてシミュレーションを繰り返し行い、いつでも誰であっても対応できるよう、職員の感染症に対する知識や行動力を向上させることが集団感染を防ぐためには必要である。

2. LIFE 導入に向けた多職種連携の強化

今後 LIFE に沿った加算が算定できるように多職種で利用者の状況を把握し情報交換やケアの必要性を見極めていくための準備をしていく必要がある。そのためには利用者ひとり一人の情報を様々な視点で把握していくことや介護職、医療職共に情報交換や意見交換を積極的に設けていきたい。担当者会議やユニット会議等に参加を行っていく。

3. 日常生活機能訓練の強化

低下した生活機能の向上や身体機能の維持を目的とし、認知症予防、日常生活動作の向上、誤嚥や褥瘡予防のための機能訓練を目指す。

外部理学療法士、介護士、看護師で連携し入居者様一人一人に合った機能訓練を計画しADLの低下を防止する。外部理学療法士からポジショニング、可動域訓練などの助言を受けADLの拡大、QOLの向上を目指す。

4. 看取りへの対応の充実

当施設で終末の時期を過ごされる利用者様、またそのご家族に対して「ここで最期を過ごせて良かった」と思ってもらえるよう終末期介護(看取り)への対応を充実させていきたい。そのためには利用者様、ご家族がどのように過ごしていきたいかという思いをできるだけくみ取り、この施設でできることは何かを施設長はじめ相談員、介護士、栄養士、医師、看護師が専門的な視点で利用者様・ご家族への対応を検討し実施していけるよう看護師が連携役ともなっていきたい。「死」がマイナスのものではなく、どう生きていくかという視点で利用者様の生活を支えていきたい。

5. 事故防止への取り組み

内服薬の誤薬による事故の防止のため、看護師による薬剤確認は必ず実施しなければならない。誤薬は利用者様に直接、健康障害を引き起こす重大な事故であるため、薬剤の管理には十分注意を払わなければいけない。見落としや間違いを防ぐよう事故防止対策も見直すことが必要である。ヒヤリハットを積極的にあげて、どのような事が事故につながりやすいのか見当を随時行い薬剤管理への意識を高めていく。結果として看護師による薬剤に関する事故が0になるよう努めていきたい。

6. 重度化防止への取り組み

加齢や機能低下、認知症による症状の進行、病状の悪化等により、徐々に状態が悪化し寝たきり、廃用症候群を起こしていく利用者様が增加しないよう、また予防していけるように日々の状態観察に努め、往診時には薬剤の調整や受診等の検討を医師と相談していく。また、介護職員の「なんだかいつもと違う」という小さな気づきを大切に、様々な視点で利用者様の変化を見逃さないよう責任を持って行きたい。褥瘡や誤嚥が起きないようスキンケアや食事時の状態観察を十分行い、重度化していかないよう早期に介入していく。

7. 職員の健康管理への取り組み

定期健康診断の連絡、調整をスムーズに行い、全職員が適切に健康診断を受けることができるようにする。また健診結果の状況を把握し、経過フォローが必要な職員が受診をできているのか。仕事に従事するうえで支障はないのかコミュニケーションを図っていき、職員一人一人が自分の健康意識を高めてもらえるよう働きかける。

特別養護老人ホームサンライフ西庄(厨房)

令和3年度 事業計画書(案)

昨年度は非常勤職員の体調不良等の欠勤が続き、下半期は管理栄養士業務に十分な時間をとることが困難であった。今年度は人員を充足させたうえで、さらに各個人の能力向上に努めていきたい。

そして、昨年度は利用者様の入退院等の連絡漏れを防ぐため食事伝票を新たに作ったが未だ定着していないのが現状である。随時提出を促すことで定着させていく。

1. 人材の定着・育成

今年度は、業務に関する変更事項を職員が忘れないように、定着するまで目の届く場所に付箋で貼っておくなどの工夫をする。

そして、職員同士がコミュニケーションをとり、質問や相談しやすい雰囲気づくりを心掛けることで確認不足による間違いを未然に防ぐ。

そして引き続き、人員を定着させたうえで、業務が効率よく回るよう、従来のやり方にこだわらず職員間で新しい意見を取り入れ見直しを行い改善、無駄を省いていく。

2. 献立の充実

昨年度は計11回の行事食(正月・節分・バレンタイン・お彼岸・ひな祭り・子供の日・七夕・敬老の日・ハロウィン・クリスマス・大晦日)を取り入れ、利用者様に季節を感じて頂けるようにした。今年度も、引き続き季節ごとの行事食に力を入れていくことに加え、旬の食材や郷土料理を取り入れた献立を提供していく。行事食の際には、お膳に行事食カードを置くことを考えている。

盛り付けに関して、フロア配膳後の盛り付けが雑であったり食器の置く位置がバラバラなことがあるため、定期的にチェックを行い給食委員会でも確認をする。利用者様の一番の楽しみは食事である。「味が美味しい」だけではなく、「見るからに美味しそう」と思ってもらえるように、見た目や彩りを意識した食事を提供していく。

食材費に関して、在庫食材を把握し管理することで、期限切れや傷みによる廃棄ゼロを目指す。

そして、発注に関しては、引き続き各業者から随時相見積もりを取り、良い品をより安い業者から仕入れる等の工夫を行う。

今年度も質を落とすことなく食材費を低く抑えることができるように無駄のないよう管理する。

3. 衛生管理

今年度も引き続き大量調理施設衛生管理マニュアルを把握し、マニュアルに沿って現在の衛生状態の見直しを随時行う。特に、清潔・不潔の区別、器具の使い分け、衛生的な手洗いの方法については、施設内研修等を通して確認する機会を設ける。また、国内で発生した食中毒の情報を収集しそれを共有することで、衛生管理に対する意識の向上を図る。

異物混入に関して、昨年度は報告がなかった。特に魚をほぐす際は骨を見逃さないよう各職員が意識をもっていたので混入を防ぐことができた。今年度も異物混入ゼロを維持する。

そして、昨年度は厨房職員の体調不良による欠勤が比較的多かった。新型コロナウイルス感染症予防の観点からも、各自で体調管理に気を配るよう働きかけを行う。

4. 栄養ケアマネジメントの充実

今年度は介護報酬改定により栄養マネジメント加算が廃止され、新たに栄養マネジメント強化加算が算定される。そのため、低栄養状態のリスクが高い利用者様に対してはミールラウンドを週3回以上行い、低栄養状態のリスクが低い利用者様にも食事の際に変化を把握し、問題がある場合は早期に対応することで栄養状態の維持及び改善に繋げていく。そして利用者様ごとの栄養状態等の情報を厚生労働省に提出する。

また、看取り期への対応に係る加算又は基本報酬の算定要件において、関与する専門職として管理栄養士が明記され、今後さらに多職種連携における管理栄養士の関与の強化が求められる。褥瘡の発生や改善は栄養と大きく関わるため、幅広い知識を得てそれを発信していく努力が必要となる。

5. 食事形態

今年度も普通食維持を目標とする。令和3年2月15日時点で普通食は13名（29名中）である。

すべての食事の形態アップは難しくても、「おやつだけ普通食」や「やわらかいものだけ極刻み→刻み」など、食べれるものだけでも形態をアップする対応を検討している。

そして、体調不良の際は一時的に形態を下げてでも食べられる物を食べて頂き経口摂取の維持を図り、体調が回復した時には再度食事形態を検討する。さらに、ターミナル期の方には、本人の好まれるもの、摂取しやすいものを提供し、最期まで少しでも口から摂取していただくよう努める。

6. 子供食堂の充実

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、7月・8月・11月・12月の4回の開催であった。今年度、子供食堂が再開されれば、希望をとるなどし、カレーだけではなくいろいろなメニューを取り入れ満足度向上に努める。

小規模多機能ホームサンライフ岡田

令和 3 年度 事業計画書（案）

昨年 10 月に小規模多機能ホームサンライフ岡田がオープンし、職員、利用者様とも徐々に増えてきている。中途採用の職員がほとんどであり、介護経験が浅い職員、小規模多機能型居宅介護サービス未経験者がほとんどであるため、今年度は職員の研修に力を入れていきたい。新型コロナウイルスにより、施設見学者の減少や、病院入院中の利用希望者様への面会禁止などにより、営業活動がうまくいかないことも多くみられるが、今年度は定員の 29 名を埋めることが出来るよう営業活動を行っていきたい。「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう」のスローガンのもと、衛生管理を徹底し、安心して利用していただける施設を目指していく。

1. 個人に応じた利用計画作成

利用者様が在宅での生活が継続できるよう、個々の特性に応じた小規模多機能型居宅介護計画を作成し、支援の提供を行う。心の通う支援を通して利用者様、職員間の信頼関係を深めるとともに、家族様の協力も得ながら、利用者様に必要な、通い、宿泊、訪問サービスを提供していく。

2. 人材育成

- I. サンライフ岡田は中途採用の職員が多く、介護未経験で働きだした者もいるため、介護知識・技術不足の職員に対し、介護技術の内部研修を実施し、技術の底上げ・向上を図る。また、外部研修の機会があれば参加していく。
- II. 業務において基礎である報告・連絡・相談がうまく機能出来ず、全職員に伝わらないことがある。出勤後連絡ノートに必ず目を通すこと、ほのぼのの事務連絡掲示板を確認することを徹底する。
- III. 通い・宿泊・訪問とサービス提供内容が幅広く、また、通い（デイ）は経験していても訪問（ヘルパー）は未経験といった職員の知識や技術の偏りが見られるため、サービス経験者を指導者として、各分野の研修を行うとともに、通い、宿泊、訪問の業務内容を詰めていく。業務内容のマニュアル化に力を入れていく。

3. 事故の防止

新規の利用者様が多い事や、小規模多機能は予定が頻回に変更になることなどから内服薬の管理が難しい状況にある。特に自己管理される方の内服薬にまで目が届かず、最

後まで服薬したか確認できていないことがあるため、忘れずに服薬の声掛け確認を行っていく。また、パソコン入力や、食事準備などに集中してしまい、利用者様の見守りが出来ていないことが多いため、職員の意識の改善を行い、事故予防に力を入れていく。

4. 忘れ物防止

通いの方や宿泊の方が混ざっており、送迎時などの荷物のチェックがきちんと出来ていないことがある。荷物のチェックミスや返し忘れなどが目立つため、荷物チェックアプリの使用法の徹底、確認と、荷物チェック後の荷物の置き方などを徹底し、荷物の返し忘れを無くしていく。

5. 感染症予防

新型コロナウイルスを含めた感染症対策として、うがい・手洗い・更衣・マスクの着用、消毒を行っている。継続して感染予防対策を行うとともに、送迎時の体温測定や、毎日 10 時の体温測定を行ない、異常の早期発見に繋げていく。また、発熱症状のある方などは、家族様、医務、主治医と相談しながら早期の対応を行っていく。熱があっても一人暮らしの方の場合は、通いや宿泊利用は難しくても訪問に行かなければならないこともあるため、職員の感染症予防意識を高めていく。

6. 収入・利用者様の確保

今年度は登録定員25名を目標とし、利用者様の獲得に努めていく。小規模多機能ホームのことをよく知らない方も非常に多いため、営業活動や広告を出し認知度を上げ、利用者様の増加につなげていきたい。また、法人内の居宅介護支援事業所とも連携を取りながら、新規の利用者様の獲得を目指していく。法改正により基本報酬の増加はあるが、新たに取得できるような加算はない。まずは介護福祉士の取得者の割合を増やし、サービス提供加算の取得を目指していく。

R3 年度岡田研修計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
介護職員対象	記録について	服薬介助について	口腔ケアについて	認知症について	認知症の方の対応	福祉用具について
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
介護職員対象	感染症について	緊急時の対応	虐待防止について	事故予防について	電話対応について	車両の扱いについて

※令和2年度2月3月は予想である。収入は介護報酬の収入を記載。 単位（千円）

収入・支出・差額についての管理者意見

小規模多機能ホームは、人員配置が利用者 3 名に対し職員 1 名+訪問人員 1 名を置かなければ、収入減算となる。また、夜勤者の他宿直者の配置もあり人件費がかさむ傾向にある。開設初期は不足の物品が数多くあり購入しなければならないことも多かったが、物品購入の支出は今年度落ち着いてくるものと思われる。収入に関しては定額制となっているため、利用日が増えても介護報酬に変化はなく、家族が希望する日数と施設が提供できる日数との調整が難しい。収入を増やしていくためには、登録定員を増やしていくことはもちろんだが、利用者の要介護度を上げていくことが重要になってくるとと思われる。

デイサービスサンライフ岡田

令和3年度 事業計画書（案）

今年度は、介護報酬改定に伴い、基本報酬の引き上げや入浴介助加算の見直し等が行われる。その中で、取得が可能な加算を算定し、収入増を図っていきたい。「コロナ感染防止で経営力強化を目指そう！！」をスローガンに感染症の予防対策を継続的に行い、収入増の為に利用者人数を増やすことが必須となる為、営業活動を行い、新規利用者様の確保に努めたい。

1. サンライフ岡田の特色作り

利用者との契約時の情報やコミュニケーションをとる中で得た情報をもとに、利用者の趣味嗜好等をノートに書きだし職員で共有し、利用者が興味を持つレクリエーションを提供していきたい。「目標のあるリハビリ」「目標のある塗り絵」など「目標のある〇〇」をテーマにレクリエーションやリハビリを実施し、「もう一度、太極拳できるようにリハビリする」「展示して他者に見てもらうために塗り絵を描く」など利用者は目標に向かって、職員は利用者の目標を把握したうえで支援できる体制にしていきたい。

2. 人材育成

岡田全体での研修に参加し、職員の介護技術や知識のスキルアップを図る。また管理者・生活相談員・介護職員・看護職員・機能訓練指導員が連携しサービスの提供ができるように、職員全体で話し合いや反省会を行っていきたい。

3. 感染症対策

新型コロナウイルス・インフルエンザやノロウイルス等の感染症が出ないように、デイサービス利用において、ウイルスを持ち込まない・持ち帰らないようにするために、手洗い（手指消毒）うがいの徹底や、体温測定やマスクの着用、換気など感染症の予防対策を行う。

4. 収入と利用者数の確保

収入面は入浴介助加算Ⅱやサービス提供体制加算Ⅲを算定できるように準備し、収入増を図っていきたい。併設の小規模多機能ホームや同法人の御立・田寺・安室・土山・御立西デイサービス・居宅・地域包括と連携を図り、利用者様の確保に努める。また営業や送迎エリアに関しては、飾磨・英賀保エリアが送迎可能な為、新規の居宅介護支援事業所への営業や新規利用者様の確保に努めていく。

※令和２年度２月３月は予想である。※収入は介護報酬の収入を記載（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入							
令和 3 年度収入計画	1, 590	1, 949	1, 964	2, 172	2, 395	2, 698	12, 768
令和 2 年度支出							
令和 3 年度支出計画	2, 689	2, 736	2, 723	3, 628	3, 171	3, 265	18, 212
令和 2 年度収支差額							
令和 3 年度収支差額計画	-1, 099	-787	-759	-1, 456	-776	-567	-5, 444
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入				161	2, 372	2, 490	4, 995
令和 3 年度収入計画	2, 955	3, 008	3, 280	3, 416	3, 462	3, 988	32, 877
令和 2 年度支出				2,599	2,736	2,723	8,058
令和 3 年度支出計画	3, 471	3, 566	4, 855	3, 638	3, 552	3, 763	41, 057
令和 2 年度収支差額				-2,437	-364	-233	-3,034
令和 3 年度収支差額計画	-516	-558	-1, 575	-222	-90	225	-8, 180
令和 2 年度と令和 3 年度計画の収入比率				%増減			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の支出比率				%増減			
令和 2 年度と令和 3 年度計画の差額比率				%増減			
収入・支出・差額についての管理者意見							
令和 3 年 1 月に開設し、利用者数がまだ少ない状況にある。月平均利用者数が 15 名を越えると収支差額が黒字に転じると計画しているので、契約者数を増やし、令和 3 年度中に月平均利用者数 15 名を目標にし、収入を増やしていきたい。							

令和３年度目標利用人数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
令和２年度実績							/月平均
月合計（人）							
令和３年度目標	4.5	6.1	6.8	7.4	8.7	9.7	7.2/月平均
月合計（人）	118	159	178	200	226	253	1,134

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和２年度実績				0.9	8.7	8.8	6.1/月平均
月合計（人）				22	226	240	488
令和３年度目標	11.0	10.8	12.2	13.5	14.6	15.1	10.0/月平均
月合計（人）	285	291	330	350	350	408	3,148

* 令和２年度実績２月３月は予想で入れています。

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

令和 3 年度事業計画書（案）

今年度は「コロナ感染防止で経営力強化を！」を経営スローガンに掲げ、コロナ感染症予防を継続し、入居者様の生活における楽しみを提供できる介護を実施していく。また、前年度と同様に「ノーリフティングケア」を推進し、職員の腰痛予防や入居者様の身体的負担の軽減を目標に掲げ、実践していく。認知症への理解、知識の習得を全職員に行い、認知症ケアの向上に取り組んでいく。

1. 感染症対策及び入居者様の生活における取組

I. コロナウィルス感染症予防の徹底

- ①感染症予防のため、職員への手洗い、嗽、アルコール消毒の徹底を呼び掛け、職員個々が感染症への意識が薄れないよう、感染症予防対策を発信し、徹底していく。
- ②コロナウィルスが施設内で発生した場合を想定した、感染症対策訓練を3ヶ月に1回実施する。（防護服の着脱方法、ゾーニングを実施する。）
- ③感染症対策のため、面会制限、ボランティア活動の受け入れ中止、行事（イベント）自粛等が継続しているが、入居者様の生活における楽しみや気分転換を図る機会を設けて実施する。（日光浴、個別のレクリエーション、感染症対策を講じた施設行事等）

II. ノーリフティングケアの推進

- ①ノーリフティングケアを実践するために必要な車椅子の導入を検討する。
- ②職員個々の腰痛を防止し、入居者様の身体的負担の軽減に努める。

III. 認知症ケアの強化

- ①無資格者における「認知症介護基礎研修」の受講を実施していく。
- ②部署内研修や職員会議等を活用し、認知症ケアに必要な知識を習得していく。
- ③高齢者虐待防止及び身体拘束に関する部署内研修を年2回（6月、12月）実施し、意識の向上を図る。

IV. 他職種との連携強化

- ①看護師・介護リーダー・相談員が月1回話し合いの場を設け、現在の介護・看護の状態の状態を報告。お互いの状態を密に話し合い、連携を図る。

2. 経営の安定化への取り組み

I. 年間稼働率目標値 98.5%以上への取り組み

(稼働率%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和2年度(実績)	97.6	99.4	99.4	98.9	99.2	97.6	97.5	100	97.1	100	100	98.5	98.8
令和3年度(目標)	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5

※令和2年度2月・3月は実績見込み

- ①特養入所候補者となる対象者をロングショートへの利用に繋げ、ショートステイと連携し、ロングショート利用の方を10名以上確保する。ロングショート利用時の状態を把握したうえで、特養への入所へ移行していく。
- ②ロングショート利用の待機者を確保し、ロングショート利用者の空室が出ないよう、ショートステイと情報共有を行い、対応していく。
- ③長期入院者に対し、家族や病院への早めのアプローチを実施し、特養での対応が困難な場合はショートステイ等の利用も含めた一時退所等も含め、早めの働きかけを行うものとする。

II. 令和3年度収入目標

※令和2年度1月・2月・3月は収入見込み

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
令和2年度収入実績	11,635	12,216	11,871	12,390	11,822	12,039	71,973
令和3年度収入計画	11,737	12,129	11,737	12,129	12,129	11,737	71,598
令和3年度支出計画	11,820	11,820	11,820	11,820	11,820	11,820	70,920
令和3年度収支計画	▲83	309	▲83	309	309	▲83	678

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度収入実績	12,246	11,914	12,076	12,129	10,954	12,129	143,421
令和3年度収入計画	12,129	11,737	12,129	12,129	10,954	12,129	142,805
令和3年度支出計画	11,820	11,820	11,820	11,820	11,820	11,820	141,840
令和3年度収支計画	309	▲83	309	309	▲866	309	965

- ①令和3年度計画収入と令和2年度の実績と比較すると約0.7% (96.5万) 増。

Ⅲ. 介護報酬改定による加算項目

- ①栄養マネジメント強化加算
- ②科学的介護推進加算
- ③自立支援促進加算
- ④褥瘡マネジメント加算
- ⑤排せつ支援加算

上記の加算項目について、算定条件を確認し、検討していく。

3. その他

- I. 介護用手袋の高騰、光熱費の増加に伴い、相談員、介護リーダー、施設物品管理委員を中心に、一人ひとりのコスト削減の意識を高め、介護だけでなく施設生活全体を意識したサービスを提供する力を養う。コストに関する注意喚起は相談員が随時、積極的に発信していく。
- II. 内出血・表皮剥離の事故が増加しており、全職員の介護方法の確認を行う。また、随時使用している物品など環境面の確認も行う。
- III. 褥瘡発生は0件を目指し、「予防」を中心に随時褥瘡対策委員と看護師を中心に介助方法や使用物品(電動式エアマット等)の検討を行う。入居者様の個々に必要な物品は家族と相談し、購入していく。
- IV. 職員の心身のリフレッシュを図るため、年に1回4～5日の休暇が取れるように配慮する。EPA職員の帰省期間のバランスも考慮する。
- V. 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修・喀痰吸引等の資格取得を積極的に促し、相談員・介護リーダーが進捗状況を確認する。
- VI. EPA 候補者と技能実習生等の日本語学習や介護福祉士国家試験の勉強において、対象となる職員の勉強時間の把握、勉強の進捗状況の確認を行い、勉強に対しての取り組みが充実できるよう、個別に面談を行い対応する。
- VII. 各種会議録や研修レポート等のデジタル化を図り、ペーパーレスへの取り組みを行う。
- VIII. 施設内設備の定期的な点検を実施し、異常の早期発見、定期改修に必要な設備のピックアップを行い、定期改修においてはコストを考慮し（優先度、費用、改修期間等）、計画的に改修計画を立て実施していく。
- IX. 緊急時送迎のための送迎者（運転者）を確保するため、部署内から1～2名程度、送迎者を育成するための運転の練習を行う。

以上

魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

令和 3 年度 事業計画(案)

前年度は、新型コロナウイルスの影響等による利用者数減少や利用者数獲得のシステムが上手くいかず、大幅な収入の落ち込みとなった。

令和 3 年度経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を！」に基づき、感染防止対策を継続しつつ、1 日の利用者数平均 19.5 名が利用して頂ける様に、安定した利用者数獲得の流れを構築し、収入増加へと繋げていく。

同時に、感染防止対策に迫われ、これまで行ってきた利用者様へのサービス提供が出来なくなる事も増え、サービスの質の低下へと繋がっている為、利用者様の常に変化していくニーズに対応しつつ、感染防止も両立出来る新しい業務体制を構築していく。

1. 安定した利用者様獲得

I. 日中利用者数目標

単位：人

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度 実績見込み	416	480	514	546	572	549	539	523	513	511	471	533	6,167
令和 3 年度 目標	585	585	585	605	605	585	605	585	605	605	546	605	7,101

- ・ 令和元年度 2 月、3 月は利用者数見込み
- ・ 日中利用者数 1 日あたり、平均 19.5 名を目指す。

II. 安定した利用者数獲得の為、特養、ケアハウス等の待機者や他施設の入居を目指す方々も含めた施設生活希望者を積極的に受け入れ、ロングショートの方や月 22 日以上の利用者様を 15 名以上確保していく。

又、施設入居された際の利用者数減少も見据え、ロングショート受け入れ上限を定めず、希望があれば積極的に調整し、受け入れていくものとする。

III. 新規利用者様の募集案内について、毎月他部署と連携し、各事業所に空床情報を伝える事で、利用者獲得へと繋げていく。

IV. 定期的に行われる担当者会議等に積極的に参加すると共に、事業所訪問等で他居宅事業所のケアマネージャーと関わりを持つ事で、ショートステイを利用してもらいやすい関係性を築いていく。

2. 収支計画

単位:千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入実績	4, 940	5, 657	6, 175	6, 918	6, 586	7, 331	37, 607
令和 3 年度収入計画	6, 903	6, 903	6, 903	7, 139	7, 139	6, 903	41, 890
令和 3 年度支出計画	5, 800	5, 600	9, 920	6, 100	5, 100	5, 100	37, 620
令和 3 年度収支計画	1, 103	1, 303	-3, 017	1, 039	2, 039	1, 803	4, 270

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入実績	6, 745	6, 254	6, 827	5, 910	5, 657	6, 175	75, 175
令和 3 年度収入計画	7, 139	6, 903	7, 139	7, 139	6, 442	7, 139	83, 791
令和 3 年度支出計画	5, 300	5, 400	10, 200	5, 100	5, 000	5, 600	74, 200
令和 3 年度収支計画	1, 839	1, 503	-3, 061	2, 039	1, 442	1, 539	9, 591

令和 2 年度 2 月・3 月は見込み

I. 令和 2 年度収入実績より、約 12%収入増を目指した令和 3 年度収入計画とする。

3. 利用者様のニーズと感染防止の両立

- I. 相・主・リーダー会議（4・6・8・10・12・2 月）、職員会議（5・7・9・11・1・3 月）を開催。日々変化していく感染対策に対応した日常業務等の検討、各委員会、係業務、介護ケアや研修等を行う。また、職員会議は、各職員が当番制にて議長を務める事とし、事前に課題や見直し点を議長に提出。リーダーと共に議題、進め方等を主体的に考え、実施していく。
- II. 年 2 回（5、11 月）に利用者様のニーズを把握する為に、相・主・リーダーがアンケートを作成し、配布。日々利用者や家族様がショートを利用するにあたり何を求めているのかについて、把握する事で日常的なサービスに反映させ、利用者様の継続した利用へと繋げていく。
- III. ケアプラン担当を中心に、ケア会議前より各職員へ利用者様の課題検討用紙を配布。各職員が感じた現状に即した課題等を抽出し、ケア会議にて検討する事で、ケアの充実と各職員が感じ、考え、伝えていく力を養っていく。
- IV. 年 2 回（6、12 月）に相談員との個人面談を実施。日々の業務の中で、抱え込んでいる悩みや要望等、各職員の想いや考えを共有する事で、働きやすい職場環境作りへと繋げていく。
- V. 前年度に引き続き、感染防止対策を実施。利用者様へのサービスとの両立を意識しつつ、継続して実施可能な対策を実施していく。又、居室清掃、消毒だけでなく、備品の修理や管理、居室の修理等も含め、利用者様に気持ちよく利用して頂く為に、主任を中心に、毎月点検を実施していく。
- VI. 4 月に、部署独自の年間スケジュールを作成。各職員がいつでも確認出来るようにする

事で、その場のみの取り組みではなく、年間を通してやりきる力を身に着けていく。

4. その他

- I. 今まで別管理していた個人情報や契約書、ケアプラン等を個々にファイルで一元管理する事に変更。整理や確認を行いやすくする事で、確実に法律に基づいたサービス提供できるシステムを構築していく。
- II. 物品管理担当を中心に、パット類や手袋、ペーパータオル、OA用紙等の消費物品使用量を毎月把握し、適正必要使用量を各職員へ発信。使い過ぎにならないよう徹底していく。
- III. これまで、運転経験が少ないペーパードライバーについて、送迎可能職員としては検討しなかったが、送迎可能職員が少なくなってきた事で、今後運転免許を所持している職員について、相談員、主任を中心に、運転研修を行い、緊急時の送迎可能職員確保へと繋げていく。

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

令和 3 年度 事業計画書（案）

今年度は、「コロナ感染防止で経営力強化を！」「全職員が認知症ケアの専門家をめざそう」を目標に介護・看護職共に足並みを揃えて向かっていきたい。

1. 感染症を拡大させない。

- I. 新型コロナ肺炎に関するマニュアルをその都度更新し、ワクチン接種後も慣れる事のないよう定期的に実践できているか確認し、対応の徹底を図る。特に流れ作業をしない事は常に発信し徹底する。
- II. 特養回診のメンバーを各フロア均等割から、フロア毎に分けて診て頂き、可能な限りリモートでの診察を継続する。
- III. 禁止事項だけでなく、いかに可能にできるかを職員間で話し合い、安全に行えることを一つずつ検討、実践していく。
- IV. コロナに特化しない感染対応、コロナも含めたスタンダードプリコーションの意識付けを目指す。

2. 褥瘡発症ゼロを目指す。

- I. 年末から一気に増加した褥瘡発生に関して、1 件 1 件発生の原因を追究、除去に努め再発防止につなげていけるよう介護職と共に処置・評価を行う事を継続していく。
- II. 時間の経過と共に自然消滅する事の無いよう、継続の意識付けを根気よく発信し続ける。
- III. 発生させないケアを介護・看護共に学習し、定着させる。

3. 薬事故防止に努める。

- I. ダブルチェックが形だけにならないようスタッフ間でしっかり意識付けをする。

4. スタッフの休息を確保する。

- I. 1 日 10 分間その日のスタッフ間で、又、2 週間に 1 回 15 分、各スタッフと主任看護師で業務以外の会話時間を設ける。
- II. 1 日 1 時間の休憩時間を確保し、しっかりと休息できるスペースを作る。
- III. 常勤職員の 1 か月 1 日以上の有給消化、1 か月 1 回以上 2 連休以上のシフト編成とする。

以上

魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

令和 3 年度 事業計画書（案）

令和 3 年度 経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を！」

サブ：全職員が認知症ケアの専門家を目指そう。

今年度のデイサービスは、コロナ感染を防止し、職員一人一人が感染予防の意識を持ち続けられるよう、発信・行動する。また、資格取得を積極的に取り組めるような環境を作り、職員全員が「介護のプロである」ことを自覚し、レベルアップした介護を行い、気配り・心配りのできる職員を目指し、利用者様に寄り添い「いつ来ても安心できるデイサービス」を目指します。

1. 利用者様獲得計画

新型コロナウイルス感染予防の為、利用者受け入れ人数を最大 32 名までとし、感染状況を見ながら、緩和できるようであれば受け入れ人数を徐々に増やすようにする。

日々の利用者数 27 名を目標とし、1 ヶ月の利用者数を要介護者 600 名、要支援者 90 名目標とし、新型コロナウイルス発生以前の利用人数まで今年度は戻せるよう努める。

（Ⅰ）利用者獲得に向けての具体的取り組み

- ① 毎月 1 日は事業所への営業を行い、状況報告、空き情報等のチラシの配布等を行い、新規利用者を獲得する。また、現利用者の追加利用に関してすぐに対応するよう敏速に調整する。
施設入所に繋げられるよう、ケアマネジャーへ事業所周りの際に入所系の状況報告を行う。入所希望されている利用者の情報をいち早く相談員へ報告しスムーズな入所に努める。
- ② 利用者及び利用者家族へ年に 2 回のアンケートを実施し、デイサービス運営の評価と共に、デイサービスに何を求めているのか、どのようなサービスを受けたいかを確認する。
- ③ ケアマネジャーにもどのようなデイサービスを希望されているか、アンケートの実施や営業の際に情報収集を行い、いつでもご利用いただけるような、相談して頂けるような関係性を構築する。
- ④ 体操・レクリエーションの充実
午前中に 30 分程、午後からのレク開始前に 20 分程、16:00 から 10 分ほど

の集団体操を実施し、筋力低下予防に努める。見本 DVD 等を作成し、いつでも見ながら取り組めるようにする。

工作レクの充実。自宅へ持って帰って飾れるような物を作成。簡単なものを低価格な材料で作成できるよう、ネット等で情報収集。

2. 感染防止対策

コロナ感染を防止し、その他感染症の予防にも職員一人一人が意識して取り組む。

(I) 感染防止に向けての具体的取り組み

- ① 朝のお迎えの際、乗車前に検温を行い、37℃以上であれば、感染予防の観点からご利用を中止させて頂く。また、自宅でも日頃の検温や体調観察を行って頂き適宜、家族様に向けて感染症の注意喚起のお手紙を配布し、体調不良時にはご利用を控えて頂く事と、早めの受診を依頼する。
- ② 来園時のうがい・手洗い・消毒は引き続き徹底し、1日4回のフロア内の消毒も継続し、送迎車内の換気・使用後の消毒を行う。
- ③ ご利用中に関してマスクを着用していただき、必要に応じてガーゼマスクの貸し出しを行い、消毒・洗浄を行う。

3. 人材育成・人材確保・資格取得

- (I) 無資格者等への認知症介護基礎研修への受講
- (II) 介護福祉士・介護支援専門員の資格取得強化
- (III) 常勤・非常勤職員も長く働けるよう、業務改善・希望があればその都度、現場で話し合い、改善を行う。職場環境の整理整頓を心掛け、業務が遂行しやすい環境を確保する。

発言しやすい環境づくりに努め、日々のコミュニケーションを深め、職員全体で一人の職員のフォローができる関係性の構築に努める。

希望休や有休がとりやすくできるよう、少人数でも業務が行える環境・業務の改善を常日頃から意識し、削減できる所は削減し、一人一人のマンパワーを向上する。

4. 設備機器の整備・点検、節約・節減への取り組み

- (I) 月2回の循環配管高濃度洗浄の実施。実施者によるチェック表記入。
年に2回はバイオフィルム洗浄剤を使用し配管洗浄を実施。定期清掃期間中に実施し、チェック表に記入し施設へ提出。
- (II) 節水・節電の意識づけの徹底。張り紙等による啓発。材料費や日用品に関しての見直しを適宜行い、無駄がないか日頃から全職員が意識する。

令和 3 年度目標人数 (単位：人) ※令和 2 年度 2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
R2 年	607	582	657	704	674	704	
月平均	23.3	22.3	25.2	26	25.9	27	
R3 年	650	676	689	729	702	728	
月平均	25	26	26.5	27	27	28	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
R2 年	725	635	668	579	570	580	7,685
月平均	26.8	25.4	25.6	24.1	23.8	23	24.8
R3 年	728	702	676	600	576	634	8,090
月平均	28	27	26	25	24	23.5	26.1

令和 3 年度収支計画 (単位：千円) ※令和 2 年度 1 月、2 月、3 月は見込み

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入実績	5,720	5,177	6,152	6,721	6,308	6,799	36,877
令和 3 年収入計画	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	37,500
令和 3 年支出計画	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	30,000
令和 3 年収支計画	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	7,500
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入実績	6,895	6,084	6,341	5,400	5,300	5,800	72,697
令和 3 年収入計画	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	6,250	75,000
令和 3 年支出計画	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	60,000
令和 3 年収支計画	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	15,000

令和 2 年度収入は前年比-9%。令和 3 年度収入計画は令和 2 年度比 3%増。

以上

フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

令和3年度 事業計画書（案）

「コロナ感染防止で経営力強化を！」をスローガンに、感染予防・対策に努める。面会・外出・行事等様々な制限による入居者様のストレス・認知症状の進行緩和・予防のため、引き続き『認知症について全職員が理解を深め、認知症ケアのプロ集団となり、入居者様に安心感を与える対応を統一し、・楽しみ・やりがい作りに取り組む。

1. 感染症対策

- I コロナウイルス感染症予防・対策の徹底。職員の意識が薄れないよう、手洗いがい・アルコール消毒・プライベートでの感染予防対策の徹底・啓発を継続。
- II 感染委員会を中心に、コロナウイルス発生時の研修を3か月に1回実施する。
- III コロナウイルスワクチン接種を円滑に受けられるよう、準備・実施をおこなう。
- IV 面会・外出・行事等様々な制限による、入居者様のストレス・認知症の進行を緩和・予防する為、楽しみ・やりがい作りを全職員で積極的に取り組む。日光浴・散歩・廊下歩行・体操を毎日の日課とし、気分転換と共に適度に体を動かす。
- V 面会制限長期化による家族様の不安・不満緩和の為、引き続き web 面会、毎月の手紙での写真掲載を継続し、様子をお伝えし家族様との信頼関係を築く。
- VI コロナ禍による物品の高騰、感染対策による光熱費の大幅な増加に伴い、支出が増えている為、一人ひとりのコスト削減の意識を高める。管理者・リーダーを中心に、無駄をなくすよう常に啓発する。無駄な出費を無くし、レク物品やリハビリ物品（チューブやペダル等）を購入する。

2. 認知症ケアの統一に向けて

- I 接し方・対応の仕方が認知症ケアで最も大切であることを全職員が認識し、常に安心感を与える対応を徹底し、認知症ケアのプロ集団となる。
- II 3か月に1回の職員会議で認知症研修を実施し、認識・ケアの統一を行う。
- III 個々の出来ること・楽しみに目を向け、全員で取り組む。
- IV 認知症 BPSD 評価を活用したケアアプローチを取り入れ実施していく。個々のニーズに向き合い、話し合いの場を作り、皆で統一した視点で統一した対応を実施。
- V 無資格者における「認知症介護基礎研修」の受講を実施していく。

3. 人材育成

- I 4 か月に 1 回正職員会議をし、正職員の意欲の向上・スキルアップを行う。
- II 令和 3 年 1 月入社の EPA 候補生 2 名の指導育成。1 か月に 1 回カンファレンスをおこない、悩みやわからないことを聞きとり、介護業務・日本語学習等の状況の把握・育成に努める。
- III 緊急時送迎の運転者育成・確保の為、運転免許を所持の職員の運転練習を行う。
- IV 介護支援専門員・介護福祉士・実務者研修等資格取得を推進する。

4. 経営定化への取り組み

- I 管理者・リーダーの現場業務以外の時間を作り、入居候補者の確保業務を行い、定期的に入退居判定会議を実施。退居時早期入居できるよう取り組む。
- II グループホームの早期入居を希望される方を中心に、ショートステイと連携し、ロングショートの利用へ繋げる事で待機者の確保を行う。
- III デイ・居宅等の他部署にグループホームの状況を伝え、入居希望者の情報を得る。デイ管理者に、毎月の居宅訪問時にグループホームの入居案内を持参し配布頂く。
- IV 介護度が重度化すると職員の負担も過多となり、ケアも行き届きにくくなる為、目安として介護度 3 以上で転居検討をしていく。ADL 低下時介護認定の変更申請も速やかにおこなう。（転居時、今迄サンライフ魚崎の特養入居不可だったが、ロングショート利用を経て特養入居が選択肢として増えた）
- V 体調管理、事故予防に努め、極力入院とにならないようサポートに努める。
又、入院時、早期退院に向けてのアプローチをし、受け入れ態勢を整える
- VI 加算項目…①初期加算 ②入院時費用 ③認知症ケア加算（Ⅰ） ④サービス提供体制強化加算（Ⅰ）ロ ⑤介護職員処遇改善加算（Ⅰ）

5. その他

- I 軽いやけどなどの労働災害・体調不良等が増加している為、勤務形態や時間の調節を行う。急な退職や欠員が起こる可能性がある為、夜勤者・短時間パート等の人員を確保したい。
- II 腰痛予防の為毎日体操実施。無理のない介助方法を会議で話し合いし実践。
- III 気持ちのゆとりを持って働けるよう、メンタルヘルスの講師への相談や人員調整・業務調整にて職員の心身の健康管理に努める。
- IV 職員の心身のリフレッシュの為、3 日以上連続休暇をとり、心身の健康を図る。
生活支援休暇も活用。
- V 記録業務の効率化・楽しみごとの充実の為、タブレットや音声入力システムを導入し、各種会議録や研修レポート等のデジタル化を図る。（ペーパーレス化）
- VI 昼食出前の日を作り、職員会議等の時間にあてる。（好きな物を選ぶ楽しみ）

6. 年間稼働率

(単位%)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
R2 年度実績	94	97	99	100	100	100	100	98	98	99	98	94
R3 年度目標	98	100	100	100	100	100	100	100	98	98	98	100

7. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴強化	接遇強化 散歩日光浴強化	接遇強化 食中毒予防	接遇強化 食中毒予防	事故防止 熱中症予防	事故防止 熱中症予防
研修・会議	感染症研修 正職員会議	GH 会議 認知症研修 身体の拘束適正化会議	身体の拘束適正化研修	感染症研修 身体の拘束適正化会議	GH 会議 認知症研修	正職員会議 身体の拘束適正化会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	接遇強化 散歩日光浴強化	感染症予防 散歩日光浴強化	感染症予防	感染症予防 接遇強化	事故防止	接遇強化
研修・会議	感染症研修	GH 会議 認知症研修 身体の拘束適正化会議	身体の拘束適正化研修 感染症研修	身体の拘束適正化会議 正職員会議	GH 会議 認知症研修	身体の拘束適正化会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集	入居判定会議	待機者情報収集

8. 令和 3 年度収支計画

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入実績	5, 185	5, 394	5, 353	5, 661	5, 641	5, 459	32, 693
令和 3 年度収入計画	5, 200	5, 300	5, 400	5, 600	5, 600	5, 500	32, 600
令和 3 年度支出計画	4, 900	5, 000	7, 000	5, 000	5, 000	5, 100	32, 000
令和 3 年度収支計画	300	500	-1, 600	500	500	400	600

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入実績	5, 596	5, 069	5, 628	5, 400	(5, 100)	(5, 100)	64, 586
令和 3 年度収入計画	5, 400	5, 200	5, 700	5, 400	5, 200	5, 200	64, 700
令和 3 年度支出計画	5, 000	5, 000	7, 700	5, 000	5, 000	5, 000	64, 700
令和 3 年度収支計画	400	300	-2, 000	400	200	200	0

・令和 2 年度収入実績は、前年比 1%増。(令和元年度より稼働率が 97%と高い)

介護型ケアハウス サンライフ魚崎

令和3年度 事業計画書（案）

「コロナ感染防止で経営力強化を！」をスローガンに施設内の感染対策を充実させつつ、入居者様には安全にお過ごし頂くと共にコロナ禍でも楽しみや生きがいを多く見出せるようにしていく。認知症ケアへの理解を全職員で深め、どの場面においても適切なケアが行えるように職員同士のチェック機能を高めていきたい。介護福祉士及び介護支援専門員の資格試験へ挑戦する職員が多い為、全員が合格できるように支援する。

1. 人材育成

- I. EPA 候補生を含む介護福祉士受験予定者全員及び介護支援専門員受験予定者が全員合格できるよう、対策講座の受講や相談員を中心に進捗状況の確認・勉強方法のアドバイスを行う。
- II. 緊急時送迎の為に運転者育成を行う。運転免許を所持している男性職員を1～2名選別し、月に1回程度、相談員が運転の訓練を行う。
- III. 必要な職員において、課題を設定した上で相談員・リーダーが毎月面談を行い達成度の確認を行う。
- IV. 技能実習生の受け入れが予定されている為、技能実習生指導者資格を持った職員を中心に注意点や指導方法の確認を行い円滑に受け入れができるよう準備を行う。

2. 入居者様確保・感染防止

- I. 毎月、相談員がデイ管理者と共に居宅訪問を行い、ケアハウスの情報提供を行う。また3か月に1度、病院や居宅事業所へ案内を送付する。
- II. 申し込みがあった方に対しては状況を考慮した上で、早期の面接・健康診断の依頼を行う。情報の共有・円滑な入居に繋げる事ができるよう面接は可能な限り看護師と共に行う。
- III. 問い合わせや見学希望の方には感染防止に配慮した上で、丁寧に説明・案内を行う。またSNS等を活用し情報発信ができないか検討を行う。
- IV. ケアハウスへの早期入居を希望される方を中心に、ショートステイと連携し、ロングショートの利用へ繋げる事で待機者の確保を行う。
- V. 必要物品の確保及び備蓄、手洗い・うがい・換気の徹底を継続しコロナウイルス等の感染防止に努め入居者様の健康を確保する。また2～3か月に1度、感染発生時のマニュアルの見直しや入居者様情報の更新を行い、万が一に備える。

3. 活用力ある職場作り・業務改善

- I. 毎週1回はケアハウス4階屋上での日光浴や散歩ができるようにし、入居者様の健康増進と楽しみが持てるように努める。

- II. 昨年度実施できなかった職員会議及びフロア会議においてはオンラインで会議が行えないか検討を行う。
- III. 概ね 4～5 日程度の連続した休暇を各職員が年 1 回は取得できるよう、勤務調整を行う。有給休暇の取得が少ない職員に対しては取得を促し、可能な限り公平に休暇が取得できるように配慮する。
- IV. 引き続き退院・退所時連携加算、若年性認知症入居者受入加算、口腔衛生管理体制加算を継続する。サービス提供体制強化加算の内（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）どれが算定できるか検討する。また介護報酬改定により新設される科学的介護推進体制加算が算定できるか検討をする。
- V. 昨年度に引き続き、新型の介護ベッドを今年も数台購入検討し、職員の負担軽減を図る。
- VI. 調理体制の見直しの検討を行い、突発的な欠勤への対応や効率良く入居者様へおいしい食事が提供できるようにする。

4. その他

- I. 設備・備品について可能な物は相談員が日頃からメンテナンスや点検を行いできるだけ長く使用できるようにする。異常が見られる場合は速やかに専門業者に連絡し整備を行う。
- II. 電気・ガス・水道にかかった費用を毎月各階に配布・掲示し、光熱費の見える化を行う事で職員の節約への意識を高める。
- III. 毎日のラジオ体操の実施、午前・午後の申し送り後に軽くストレッチ運動等を行う事で腰痛予防等、職員の労働災害防止に努める。

5. 年間稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
令和 2 年度 (実績)	99.7	97.8	97.8	99.1	100	99.5	97.6	96.1	97.4	98.6	(96.0)	(97.0)	98.0
令和 3 年度 (目標)	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	97.5	97.5	97.5	98.3

6. 収支計画

令和 3 年度収支計画

(単位：千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
令和 2 年度収入実績	19,552	19,669	19,279	20,010	20,344	19,497	118,531
令和 3 年度収入計画	19,500	19,500	19,250	20,000	20,000	19,500	117,750
令和 3 年度支出計画	15,000	14,500	25,000	15,000	15,300	14,000	98,800
令和 3 年度収支計画	4,500	5,000	-5750	5,000	4,700	5,500	18,950

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
令和 2 年度収入実績	19,631	19,253	20,119	20,595	(18,750)	(19,000)	(235,879)
令和 3 年度収入計画	20,000	19,500	20,000	20,000	19,000	19,750	236,000
令和 3 年度支出計画	15,500	14,000	26,000	15,300	14,500	15,400	200,000
令和 3 年度収支計画	4,500	5,500	-6,000	4,700	4,500	4,350	36,500

Ⅰ．令和 2 年度実績については令和元年度と比較して約 1 % (260 万) 増。

Ⅱ．令和 3 年度計画収入と令和 2 年度の実績と比較すると約 12 万増。

7. 年間活動計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重点目標	感染症予防	腰痛予防	事故防止	腰痛予防	熱中症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
			職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重点目標	腰痛予防	事故防止	感染症予防	感染症予防	感染症予防	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
			職員会議 フロア会議			職員会議 フロア会議
利用者確保	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布	事業所訪問	事業所訪問	事業所訪問 案内配布

以 上

介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

令和3年度 事業計画書（案）

＜スローガン＞ 「コロナ感染防止で経営力強化を！」
全職員が認知用ケアの専門家をめざそう。

＜方針＞

1. 入居者様の健康管理

- 1) 入居希望者様との面接に同席し、生活上の医療的な問題の把握に努める。
- 2) 入居者様の体調確認を行い、受診の必要がある場合は速やかに医療機関へとなく。入院日数の減少、在園日数の延長を目標とし、日頃より異常の早期発見に努める。
- 3) 看護主任は医療連携報告書を作成し、医師と看護師の情報共有を行う。
- 4) 看護職員間、多職種との連携強化により、質の高いケアを実践する。
- 5) 褥瘡ゼロへの取り組みを行う。早めの、栄養管理と体位変換・排泄ケアと清潔維持に職員全員で取り組む。
- 6) 転倒リスクのアセスメントを行い、センサーマット、見守りカメラの活用により、職員全員での転倒予防に努める。

2. 看取りの対応

- 1) 入居時に、危篤時の対応についてあらかじめご家族様へ意思を確認しておく。
- 2) ご家族様や医師への状態報告を密に行い、適切な看取り同意書の取得時期に医師から説明をして頂く。
- 3) 出来る範囲内の医療行為を行い、最期まで安楽に過ごせる為の支援を行う。

3. 感染対策

- 1) 新型コロナウイルス感染者を出さないための予防策を徹底する。
 - ①日頃より入居者様の状態をしっかりと観察し異常の早期発見に努める。
 - ②手洗い、うがいの励行、面会・外出制限により感染経路の遮断を行う。
 - ③職員の体調管理に努める。休憩時間をしっかりと確保して、看護師の疲労・過労防止に努め、年休を計画的に取得できるよう努める。
 - ④もし感染者が出た場合は感染を拡大させないよう、マニュアルに沿って対応する。定期的に見直し、活用的なマニュアルにしていく。

以上

サンライフ魚崎（厨房）

令和3年度 事業計画書（案）

今年度、ささゆり会の経営スローガンである「コロナ感染防止で経営力強化を！」を実現するため、厨房職員の人材育成・職場環境改善を重点に置き、初心に戻り安心・安全・美味しい食事提供に向けた指導方法を見直し、基礎的な知識の習得を目指す。また、介護報酬改定に伴い、算定要件を熟知し、新たな加算の算定を検討する。

1. 人材育成方法の見直し

- I. 昨年度は4月～常勤職員の調理師が入社し、今年度は新たに新卒で常勤職員の管理栄養士1名が入社となる。実際に必要とされる専門的知識の習得前に、報告・連絡・相談・情報共有の基本的な知識をはじめ、衛生面や給食業務の知識の習得を重きに置き、育成を行う。3年目以降の厨房職員も同様に、基礎的知識等の再確認の徹底を行う。また、管理栄養士業務の一つである日頃の利用者様の様子観察に関して、コロナ禍でどのようにして利用者様一人ひとりと向き合う事ができるか、多職種と相談しながら実現に向け、検討を行う。
 - ① 基礎的知識の習得を目指す（情報共有・衛生面・給食業務等）
 - ② コミュニケーション・情報共有を十分に行い、個々の考えや能力を尊重し、安心・安全・美味しい食事作りを目指す
 - ③ 失敗や不安を取り除き、随時、その人の“出来る事”を話し合い、個々に応じた習得ペースで行い、自信につなげる
- II. 多くの非常勤職員で構成されており、比較的年配の方（約1/3が65歳以上、そのうち2名が70歳以上）・未経験者・資格保持者だが未経験である方等が混在するため、個々の知識や能力の差が見受けられる。食事提供間違い等（アレルギー提供事故等）の事故・火傷や裂傷などの労働災害に留意し、随時、労働時間の配慮・厨房環境の整備に加え、業務全体の補助や業務内容の具体化等を行い、業務内容の浸透を図る。
 - ① 毎日、業務の担当を決め、個々の役割を明確にし、自ら考え・工夫する事で業務の効率化につなげていく。
 - ② 厨房朝礼や昼礼を行い、当日の業務内容を把握する事でアレルギー等の事故を防止し、安心・安全・美味しい食事の提供に努める。
 - ③ “良かった事”“悪かった事”を随時、発信し、調理方法を統一し、美味しい食事や新しいメニューの開発に努める
 - ④ 周囲の状況を見極め、お互いを助け合うことで信頼関係を築く
- III. 業務に支障のない範囲で有給休暇を取得できるよう勤務を調整する。また、今年度は健康増進、及び、仕事への意欲を持たせる為、常勤職員を主に連続リフレッシュ休暇（3連休以上）の取得を目指す。

2. 厨房設備機器の更新・改修の検討

I. 昨年度末、厨房空調工事が1週間程施行・更新した。その他にも、厨房設備の老朽化が見受けられる。コロナ禍ではあるが、随時、必要に応じて副本部長・施設長・事務長・管理栄養士で厨房設備の更新・改修の検討を行う。

① 温冷配膳車の更新

② 食器乾燥機の更新

③ 各冷蔵庫・冷凍冷蔵庫の更新・改修

④ 異臭・害虫（コバエ等）の原因となる排水側溝の改修

⑤ 長期使用の食器・器具等（鍋・ケトル・業務用レンジ・水質検査薬）の更新

II. 利用者様の個別対応の増加・取引業者変更に伴う食材の種類変更により業務内容が複雑化している一方、厨房職員の高齢化や個々の技量差が大きく、業務内容の簡素化を視野に入れ、新調理システム導入の有無の検討も行う。

また、今後、厳しい人材確保が懸念されるため、ケアハウスの昼食調理業務を厨房に一本化する事も念頭に置いて、検討していく。

3. 介護報酬改定に伴う検討

I. 今年度は介護報酬改定となり、栄養ケアマネジメント加算が廃止され、基本サービスに組み込まれる。改定内容を熟知し、新たな加算の算定の必要性を検討する

以上

サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

令和3年度 事業計画書（案）

今年度の法人経営スローガン「コロナ感染防止で、経営力強化を」
副題、全職員が認知症ケアの専門家をめざそうに沿って、また2021年4月に介護報酬改定にのっとり、前年度より続いている赤字をできるだけ単年度では解消するよう進めていく。現在、正社員ケアマネ3名＋非常勤認定調査員1名で頑張ります。

1. 感染症や災害への対応力強化

感染症や災害の発生した場合であっても、利用者に必要なサービスを継続的に提供できるようにする。

2. 下記、新しい創設項目を取得していきます

- I. 医療機関との情報連携の強化（創設）
- II. 医師の診察を受ける際に、ケアマネが同席し情報連携を行い、ケアマネジメントを行い、通院時情報連携加算 50 単位／回を加算する。
- III. 地域包括支援センターより介護予防支援のケアプラン委託時、情報連携等を評価する「委託連携加算」300 単位／回を加算する（創設）

3. その他

- I. ケアマネの退院・退所時カンファレンスにおける福祉用具専門相談員等を必要に応じ、参画することを明確にします。
- II. Line 等の利用により、他職種連携をより進めていくように努めます。
ケアプランや重要事項説明において、同意等を電磁的記録としていく方向を考えます。
- III. 生活援助の訪問回数の多い利用者等のケアプランの検証を行っていきます。
- IV. 看取り期でのサービス利用前の相談、モニタリングの評価を行い、本人の意思を尊重した支援に結び付ける。

○ 利用者数（介護）

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2 年度 実績	介護	53	56	61	67	64	66	72	75	79	76	80	82	831
	予防	1	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	25
R3 年度 目標	介護	85	85	85	90	90	90	95	95	95	100	100	100	1,110
	予防	10	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	99

※R2 年度 2 月及び 3 月は見込み数

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）

（単位：千円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
R2 年度収入実績	690	723	803	877	807	825	4,725
R3 年度収入計画	1,050	1,050	1,050	1,130	1,130	1,130	6,540
R3 年度支出計画	900	900	2,400	900	900	900	6,900
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2 年度収入実績	934	970	1,006	962	1,005	1,023	10,625
R3 年度収入計画	1,200	1,200	1,300	1,300	1,300	1,300	14,140
R3 年度支出計画	900	900	2,400	900	900	900	13,800

※R2 度 2 月及び 3 月は見込み額

○ 収入（認定調査委託料）

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
R2 年度実績	56	20	90	123	121	124
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2 年度実績	86	86	166	80	99	99

※R2 度 2 月及び 3 月は見込み額

以 上

令和 3 年度魚崎北部あんしんすこやかセンター

(地域包括支援センター)

令和 3 年度事業計画書 (案)

経営スローガン「コロナ感染防止で経営力強化を！」

サブ「全職員が認知症ケアの専門家をめざそう」

昨年度「お魚の会」兼「地域ケア会議」を通し、認知症家族がどんな支援を必要とし地域や行政にどんな支援を求めているか、地域の人や医療関係者や事業所の方と一緒に考えた。昨年度コロナ禍で中止となった、認知症の人の問題行動で地域の困りごとをロールプレイして、どう対応したらよいか認知症の人の対応を地域で考える企画を、今年度実施とする。また今年度は、認知症ケアの地域企業の困り事に視点を置き、地域企業より情報収集や課題を探る。認知症ケアの共助の取組を行う。

相談、介護予防支援、認知症施策、ひきこもり・8050 関連施策との連動、包括的連携、虐待、困難事例、成年後見、ケアマネ支援、見守り、緊急対応、地域診断、つどい場の後方支援、会議、イベント企画等多種多様な対応を求められるが、常にセンター内で情報共有し、コロナ感染防止策を検討し、職員一同で助け合ってコロナ禍を乗り越える。

企画イベント回数、研修参加等必要最小限に削減、記録の短縮、業務の簡素化や効率化を図り、定時退社や職員の健康維持増進を目指す。

今年度 4 月から田中町が圏域外となり、昨年度スムーズに移行できるように準備したが、田中町の方が困らないようフォローする。

昨年度より取り組んでいる北青木の情報収集、共有、居場所、人材の模索を継続実施する。北青木地域の独居、老々世帯にセンターの広報をする。

2021 年度も「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」をスローガンとする。

1. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

事業所連絡会で、事業所、主にケアマネジャー向けに成年後見制度だけでなく、それに関わる周辺制度（銀行協会の取り組み等）も含めてリサーチし、インフォメーションする。

つどい場・介護リフレッシュ教室・給食会等で消費者被害注意喚起・高齢者虐待予防の広報をする。

2. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

魚崎北部 認知症サポートネット『お魚の会』構築

(令和2年度は神戸市から30,000円委託料あり、令和3年度の委託金額は不明)

10年目を迎える「お魚の会」は「地域ケア会議」を兼ねて令和3年度も年2回開催予定。

第1回目 7月 認知症の人の問題行動で地域の人困っていることをロールプレイして、どう対応したらよいか認知症の人の対応を地域で考える。

第2回目 1月 地域産業(銀行、スーパー等)の認知症対応の困りごとを地域で考える。

介護予防普及啓発事業の推進(神戸市から80万円の委託料あり)

介護予防普及啓発事業「元氣いきいき講座」をR3年度は、年2回開催予定。

第1回目 6月 フレイル予防(魚崎地域で開催)

第2回目 10月 オーラルフレイル予防(北青木地域で開催)

3. コロナ感染症の影響は大きく、会議等なかなか集まらない状況だが、WEB研修にて地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議等を開催していく。

(神戸市から最大24,000円委託料あり。)

地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく

第1回目 7月 「認知症の人の対応地域の困りごと検討」お魚の会合同開催予定。

第2回目 11月 事例検討会開催予定。

第3回目 1月 「認知症の人の対応地域産業の困りごと検討」お魚の会合同開催予定。

・地域別連絡会(ケアマネ支援)WEB研修を中心に

ケアマネ支援の為の連絡会等、毎月テーマを変えて開催していく。地域包括ケアに向けて2021年度の目的はセンター間の連携と地域内居宅事業所ケアマネの勉強会によるレベルアップ等を図って、地域に貢献していけるようにする為である。

「東灘区あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行っていく。

・センター主催 ケアマネ支援研修

医療と介護の連携について	6月
口腔内研修	8月
困難事例検討会	12月
障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会	2月

事業者連絡会

圏域内の事業者との連携の為の連絡会

精神障害 8月

成年後見制度について 11月

東灘区主催会議に参加していく。

- ・区主催 東灘区あんしんすこやかセンター連絡会 月1回（第3月曜日）
 - ・区主催 東灘区ケアネットワーク会議 4回/年（第3金曜日）
4. コロナ感染症の影響は大きく、外出の機会が減り、自宅での長期自粛などで社会から取り残された状態の独居高齢者世帯や老々世帯などが、また地域に出掛けられるように支える。また、集いの場があっても、コロナ感染症対応で再開できていないグループもあり、工夫しながら再開できるように支援していく。
- ・介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高18万円委託料あり。
介護者を対象にした介護リフレッシュ教室（最低必要回数である年4回開催予定）
4月 健康講座
7月 酒蔵見学&住吉川散策
11月 フラワーアレンジメント
2月 音楽鑑賞
 - ・地域活動の見守りと支援の継続
 - 魚崎南部あんしんすこやかセンターと共同し「魚崎つどいばめぐり」実行委員会を中心に住民主体で運営できるように今後も支援を行う。
 - 「かしまし処」コミサポ事業が終了となり、今後は、ボランティア主体で運営できるように支援する。（毎月第3火曜日 14：00～16：00）喫茶から作品つくりに変更し継続している。
 - 「東灘すまいるサロン」5月から立ち上げの居場所あり、支援を継続する。
 - ふれあい喫茶は当法人主催での取り組みであるが、コロナ感染症状況を確認しながら、再開の工夫や規模縮小など考えて、今後も再開の検討を行う。

5. 2021年度介護予防目標収入

例年収入UPを目指す、田中町3,4,5丁目が他圏域に移る為、1%UPとする。

2021年度介護予防請求額

月平均

前年比

2020年請求金額（単位：円）	作成件数	月平均件数	（単位：円）	
12,000,000	2,700	222	100,000	104%up
2021年度介護予防目標額				
13,200,000	2,970	247	110,000	目標101%up

神戸市からの委託料※2021年度

収入	2020年度	2021年度予想	収益（円）	up率
人件費	13,500,000	13,500,000		
事務経費	4,800,000	4,800,000		
介護予防普及	800,000	800,000		
評価事業	60,000	60,000		

地域ケア会議	12,000	12,000		
地域支え合い	4,500,000	4,500,000		
介護予防	12,000,000	13,200,000		
シルバーハウジング	529,000	529,000		
合計	36,201,000	37,401,000		103% UP

支出	2020 年度	2021 年度予想	支出（円）	up 率
人件費	27,100,000	27,100,000		
事務経費	2,400,000	2,300,000		
事業費	600,000	500,000		
原価償却費	800,000	800,000		
その他	400,000	400,000		
合計	31,300,000	31,100,000		1% DAWN

6. あんしんすこやかセンター令和3年度行事予定表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域ケア会議				○				○		○		
お魚の会				○						○		
元気いきいき 講座			○				○					
リフレッシュ 教室	○			○				○			○	

7. コロナ感染防止対策

- ・健康管理：職員各自が、法人の感染対応マニュアルに沿った生活をし、毎日朝夕の検温、記録、提出して健康管理に努める。体調不良時は、出勤前に連絡し勤務を検討。
- ・包括職員間の感染予防：各デスク間をビニールクロスで仕切り、定期的にビニールクロスの消毒実施。（週1回以上）飲食以外は、マスクを着用。（外す場合、ジプロックか容器に収納）各デスクで、食事摂取。食前食後のデスク消毒。
共有のパソコンの使用前後に消毒。
- ・訪問及び面談対応：訪問前に、利用者様や相談者の発熱等体調不良が無いことを確認する。アルコール消毒用スプレーボトルを、全職員が携帯し、訪問の入室前後に手指消毒を実施。出来るだけ電話で情報収集や相談対応し、訪問は基本15分以内とし、フェイスシールドを装着。フェイスシールドは、利用毎に消毒。

施設での面談時は、窓は開けたままで、仕切り版のある面談室を利用し出来るだけ短時間で行う。利用後のデスクや仕切り版の消毒をする。

- ・体調不良者の対応：感染リスクの回避を検討。どうしても訪問しないといけない場合は、センター職員で検討し、管理者（不在時は副本部長、不在時は施設長、不在時は事務長）の判断を仰ぎ、対応方法を検討して、完全感染対応装備で対応する。訪問後体調不良や発熱が分かり接触してしまった場合は、まずは消毒をして、帰社前に、法人に連絡し、対応の指示を受ける。（帰社してよいか。自宅に帰るか等）
- ・センター職員の会議：窓は開けたままで、座席は1 m以上間隔をあける。
- ・会議やイベント開催：時間短縮、人数制限、常時換気、手指消毒、デスクや椅子等消毒、開催前の参加者の検温、マスク装着、グループワーク時はフェイスシールド装着、マイク使用者毎の消毒など企画時より検討し実施する。
- ・研修・会議の参加については **WEB** の最大活用を目指す。

以上